

八尾市
高齢者実態調査及び
在宅介護実態調査

報 告 書
《速報版》

令和8（2026）年2月

 八 尾 市

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査設計	1
(1) 高齢者実態調査	1
(2) 在宅介護実態調査	1
3 回収状況	1
4 報告書の見方	1
第2章 調査結果よりみる課題	2
1 要介護状態になる前のリスク【高齢者実態調査】	3
(1) 運動器機能の低下	3
(2) 低栄養状態	6
(3) 口腔機能の低下	8
(4) 閉じこもり傾向	10
(5) 認知機能の低下	11
(6) うつ傾向	12
(7) 転倒リスク	14
(8) IADLの低下	15
(9) 事業対象者	17
(10) 普段から介護予防のために健康維持・増進を意識しているか	18
2 社会参加状況【高齢者実態調査】	19
(1) 地域の会・グループへの参加頻度	19
(2) 参加者としての地域活動への参加意向	24
(3) 企画・運営としての地域活動への参加意向	24
(4) 居場所を感じることができる集まりはあるか	25
3 地域包括ケアシステムの構築に向けたニーズ【高齢者実態調査】	26
(1) 医療・介護が必要となったときに暮らしたい場所	26
(2) 高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験	27
(3) 認知症になった時の暮らし方の希望	28
(4) 人生会議を行っているか	29
(5) 熱中症対策を行っているか	30
4 介護サービスのニーズ【高齢者実態調査】	32
(1) 介護保険サービスの利用状況	32
5 介護者の就労継続や在宅生活の継続に効果的なサービス利用の動向などについて【在宅介護実態調査】	34

(1) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	34
(2) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	38

第1章 調査の概要

1 調査の目的

八尾市では、計画期間が令和9(2027)年度から令和11(2029)年度までの第10期八尾市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画を策定する予定としており、この調査は、次期計画策定における基礎的な資料を作成することを目的に実施しました。

2 調査設計

(1) 高齢者実態調査

調査対象：本市に在住され、令和7(2025)年11月11日現在で要介護1～5の認定を受けていない65歳以上の人の中から7,500人を無作為に抽出

調査期間：令和7(2025)年12月4日(木)～令和7(2025)年12月26日(金)

調査方法：郵送配布、郵送回収(回収率向上のための礼状兼督促はがきを郵送)

(2) 在宅介護実態調査

調査対象：本市に在住され、令和7(2025)年11月11日現在で要支援・要介護の認定を受けている在宅の人の中から600人を無作為に抽出

調査期間：令和7(2025)年12月4日(木)～令和7(2025)年12月26日(金)

調査方法：郵送配布、郵送回収

3 回収状況

■調査の配布数と回収状況

	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
(1) 高齢者実態調査	7,500件	5,800件	77.3%	5,797件	77.3%
(2) 在宅介護実態調査	600件	356件	59.3%	356件	59.3%

4 報告書の見方

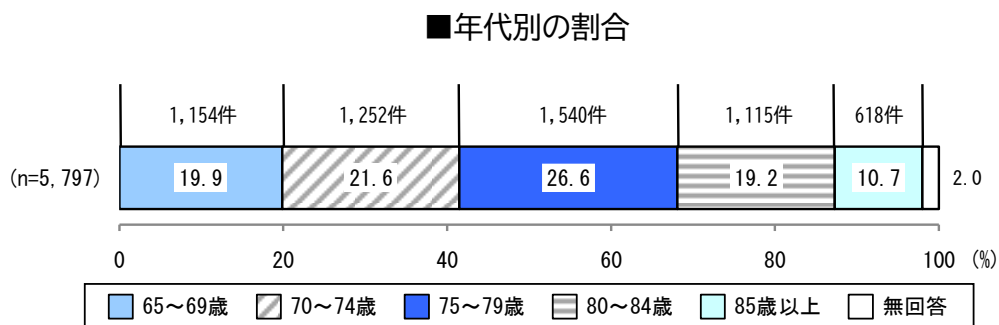
- 調査結果の図表は、原則として回答者の構成比(百分率)で表現しています。
- 図表中の「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 集計は、回答者数(該当質問においては該当者数)を100%として算出し、本文及び図表の数値に関しては、全て小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記します。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。また、複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

第2章 調査結果よりみる課題

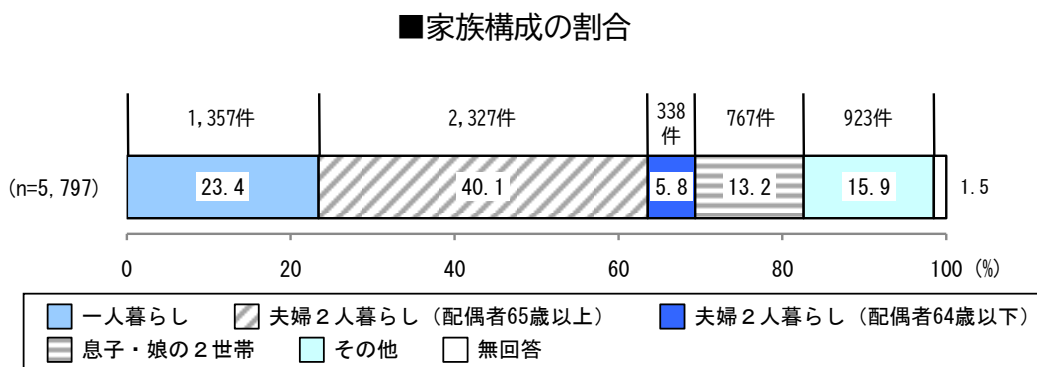
ここでは、「要介護状態になる前のリスク」、「社会参加状況」、「地域包括ケアシステムの構築に向けたニーズ」、「介護サービスのニーズ」、「介護者の就労継続や在宅生活の継続に効果的なサービス利用の動向などについて」の5点について分析を行いました。

高齢者実態調査の属性

対象者についての年代別では、75～79歳の割合が最も高くなっています。



対象者について家族構成別では、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）の割合が最も高くなっています。



1 要介護状態になる前のリスク【高齢者実態調査】

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」は、要介護状態になる前の高齢者について、要介護状態になるリスクの発生状況と、各種リスクに影響を与える日常生活の状況を把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に実施しています。

ここでは、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を使用し、各種リスクの判定を行っています。

(1) 運動器機能の低下

下記の5設問について、3問以上該当する選択肢が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者として判定しました。

■運動器機能の低下を判定するための項目

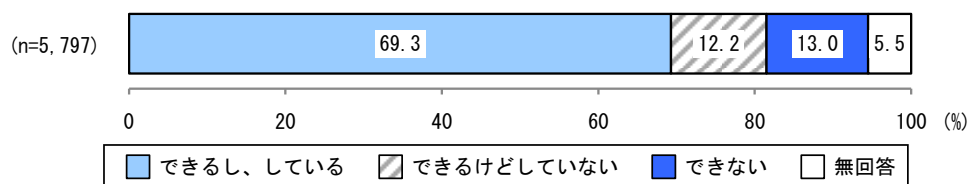
設問番号	設問	該当する選択肢
問2-1	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	「3. できない」
問2-2	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	「3. できない」
問2-3	15分位続けて歩いていますか。	「3. できない」
問2-4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」
問2-5	転倒に対する不安は大きいですか。	「1. とても不安である」 「2. やや不安である」

■問2-1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。



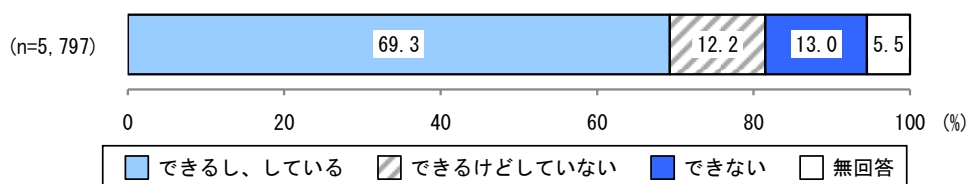
階段を手すりや壁をつたわずに昇っている割合は、できるし、しているが51.8%と最も高くなっています。

■問2-2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。



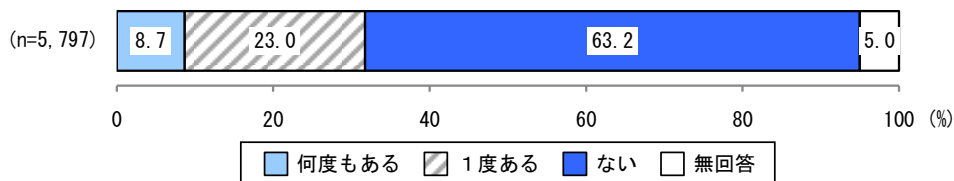
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がる割合は、できるし、しているが69.3%と最も高くなっています。

■問2-3 15分位続けて歩いていますか。



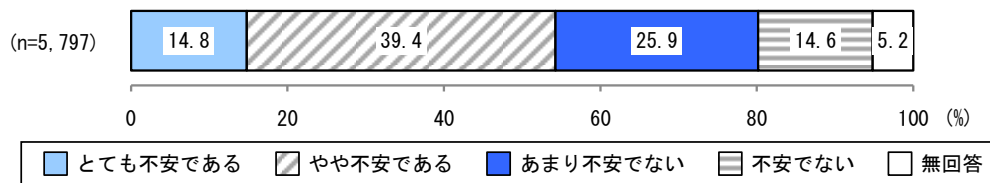
15分位続けて歩いている割合は、できるし、しているが69.3%と最も高くなっています。

■問2-4 過去1年間に転んだ経験がありますか。



過去1年間に転んだ経験の割合は、ないが63.2%と最も高くなっています。

■問2-5 転倒に対する不安は大きいですか。



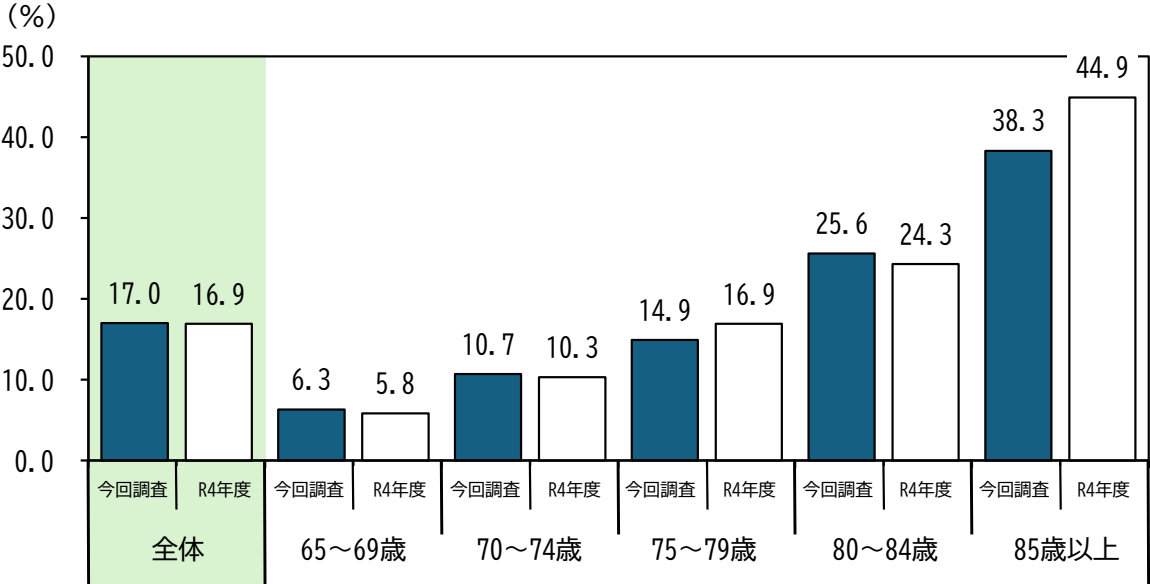
転倒に対する不安の割合は、やや不安であるが39.4%と最も高くなっています。

運動器機能が低下している高齢者の割合は17.0%で、令和4（2022）年度調査と大きな差はみられない。

運動器機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で17.0%と、令和4（2022）年度調査（16.9%）と、大きな差はみられません。

年齢別でみると、85歳以上（38.3%）が令和4（2022）年度調査（44.9%）より6.6ポイント減少しています。

■運動器機能の低下 該当者の割合



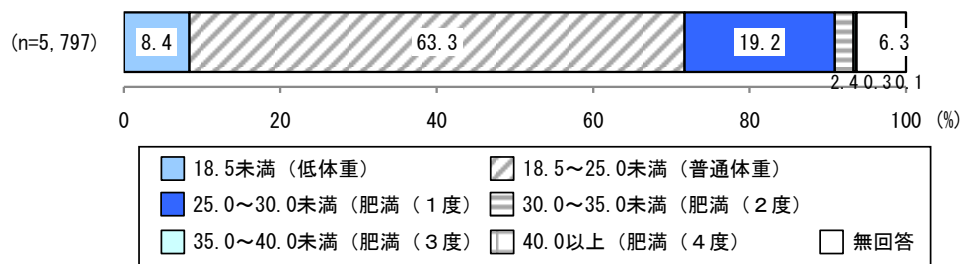
(2) 低栄養状態

下記の2設問について、2設問ともに該当した場合、低栄養状態の高齢者として判定しました。

■低栄養状態を判定するための項目

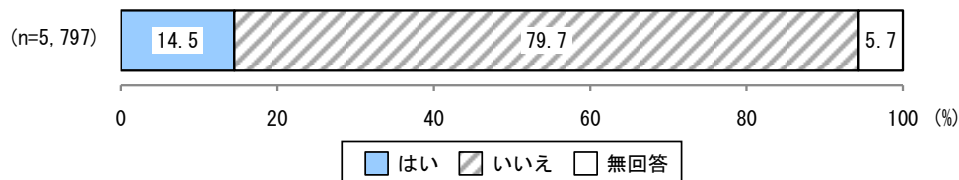
設問番号	設問	該当する選択肢
問3-1	身長・体重を教えてください。	身長・体重から算出されるBMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が18.5以下
問3-8	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	「1. はい」

■問3-1 身長・体重を教えてください。



BMIの割合は、18.5～25.0未満が63.3%と最も高くなっています。

■問3-8 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。



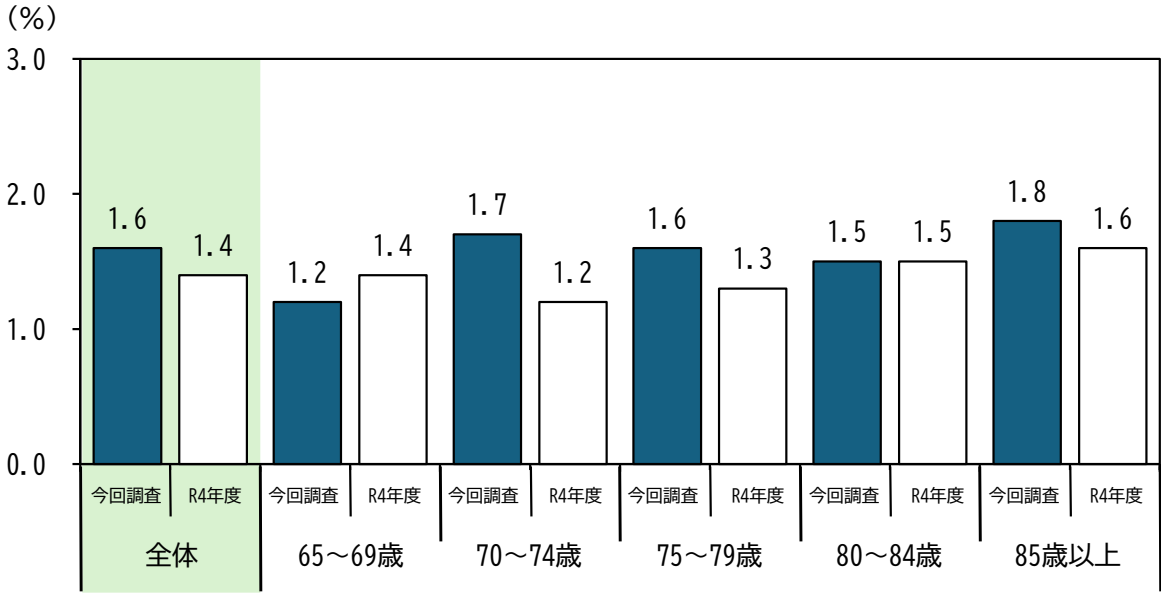
6か月間で2～3kg以上の体重減少があった割合は、いいえが79.7%と最も高くなっています。

低栄養状態の高齢者の割合は1.6%で、令和4（2022）年度調査と大きな差はみられない。

低栄養状態と判定された高齢者の割合は、全体で1.6%で、令和4（2022）年度調査（1.4%）と大きな差はみられません。

年齢別でみると、令和4（2022）年度調査、85歳以上の割合が最も高くなっています。

■低栄養状態 該当者の割合



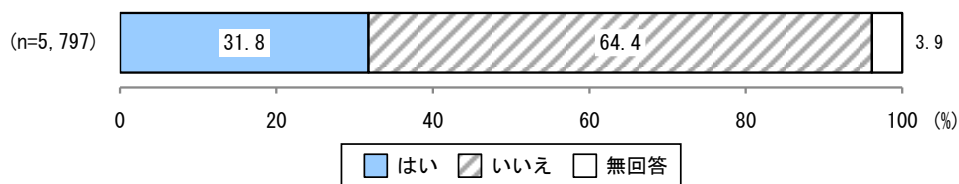
(3) 口腔機能の低下

下記の3設問について、2問以上該当する選択肢が回答された場合、口腔機能が低下している高齢者として判定しました。

■口腔機能の低下を判定するための項目

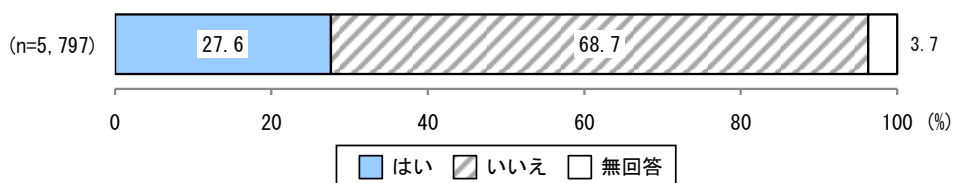
設問番号	設問	該当する選択肢
問3-2	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	「1. はい」
問3-3	お茶や汁物等でむせることがありますか。	「1. はい」
問3-4	口の渇きが気になりますか。	「1. はい」

■問3-2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。



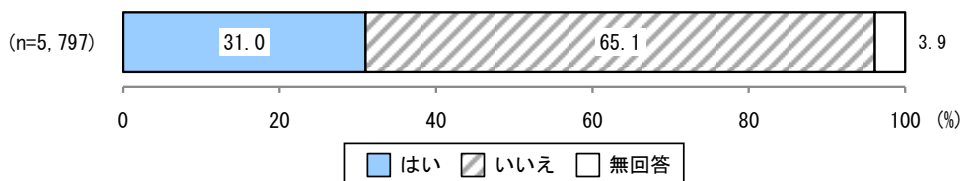
半年前に比べて固いものが食べにくくなった割合は、いいえが64.4%と最も高くなっています。

■問3-3 お茶や汁物等でむせることがありますか。



お茶や汁物等でむせることがある割合は、いいえが68.7%と最も高くなっています。

■問3-4 口の渇きが気になりますか。



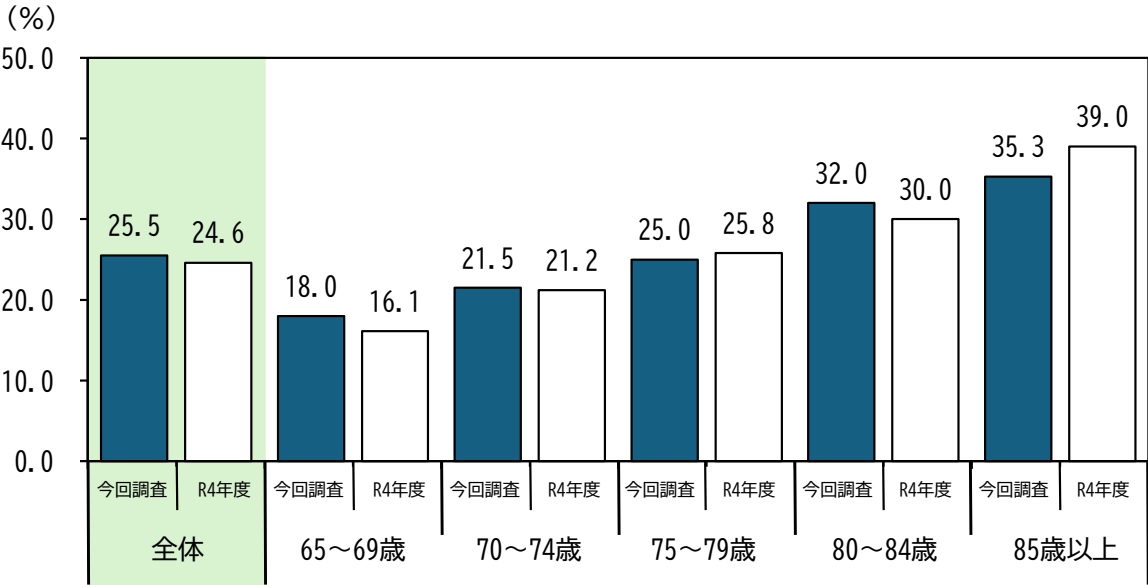
口の渇きが気になる割合は、いいえが65.1%と最も高くなっています。

口腔機能が低下している高齢者の割合は25.5%で、令和4（2022）年度調査と大きな差はみられない。

口腔機能が低下していると判定された高齢者の割合は、全体で25.5%で、令和4（2022）年度調査（24.6%）より0.9ポイント悪化しています。

年齢別で見ると、65～69歳（18.0%）が令和4（2022）年度調査（16.1%）より1.9ポイント増加しており、85歳以上（35.3%）が令和4（2022）年度調査（39.0%）より3.7ポイント減少しています。

■口腔機能の低下 該当者の割合



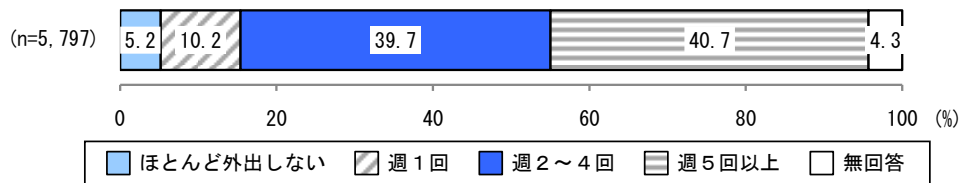
(4) 閉じこもり傾向

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、閉じこもり傾向の高齢者として判定しました。

■閉じこもり傾向を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問2-6	週に1回以上は外出していますか。	「1. ほとんど外出しない」 「2. 週1回」

■問2-6 週に1回以上は外出していますか。【高齢者実態調査】



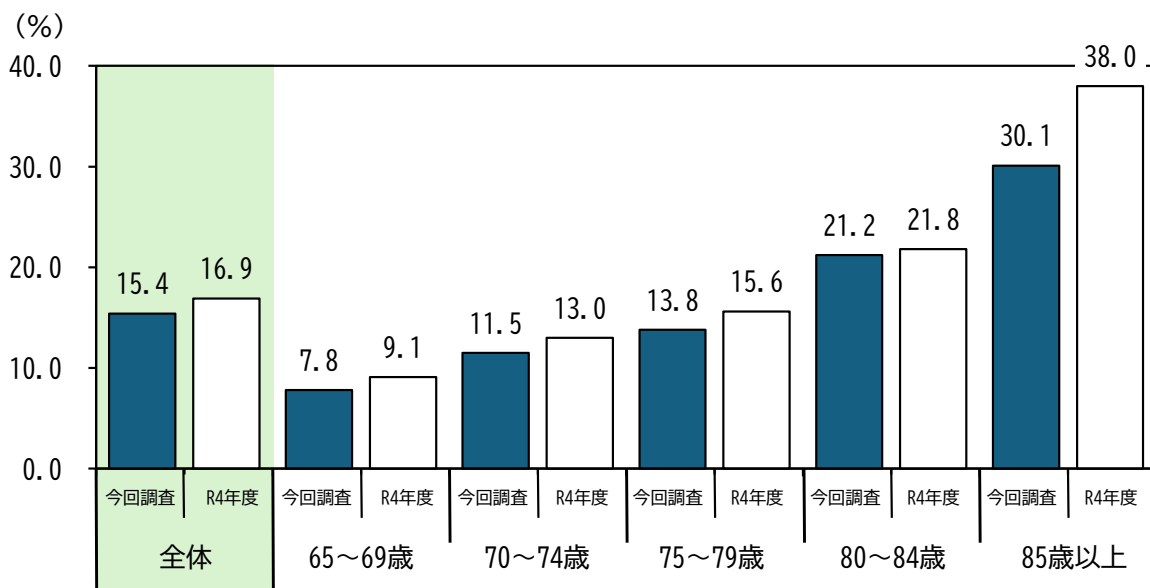
週に1回以上は外出している割合は、週2~4回が39.7%と最も高くなっています。

閉じこもり傾向の高齢者の割合は15.4%で、令和4（2022）年度調査と大きな差はみられない。

閉じこもり傾向と判定された高齢者の割合は、全体で15.4%で、令和4（2022）年度調査（16.9%）より割合が減少しています。

年齢別でみると、85歳以上（30.1%）が令和4（2022）年度調査（38.0%）より7.9ポイント減少しています。

■閉じこもり傾向 該当者の割合



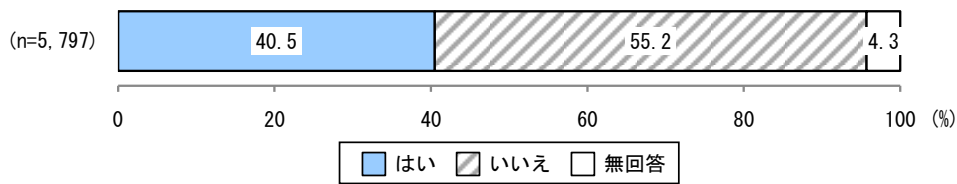
(5) 認知機能の低下

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、認知機能の低下がみられる高齢者として判定しました。

■認知機能の低下を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問4-1	物忘れが多いと感じますか。	「1. はい」

■問4-1 物忘れが多いと感じますか。



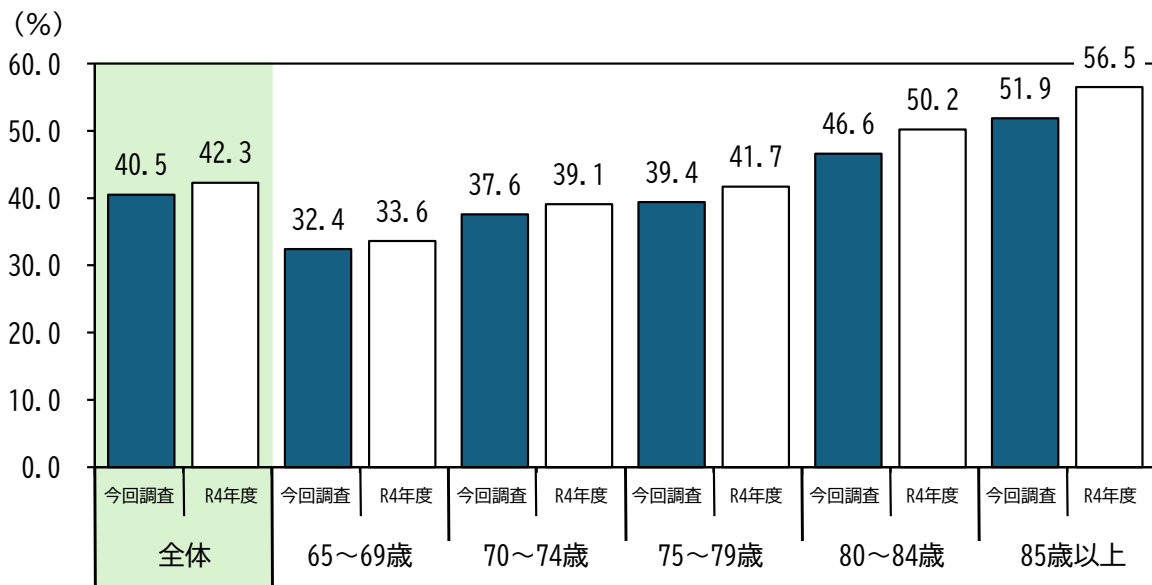
物忘れが多いと感じる割合は、いいえが55.2%と最も高くなっています。

認知機能が低下している高齢者の割合は40.5%で、令和4（2022）年度調査と大きな差はみられない。

認知機能の低下がみられると判定された高齢者の割合は、全体で40.5%で、令和4（2022）年度調査（42.3%）より割合が減少しています。

年齢別でみると、全ての年齢層で令和4（2022）年度調査より割合が減少しています。一方、85歳以上は、5割以上が認知機能の低下に該当しています。

■認知機能の低下 該当者の割合



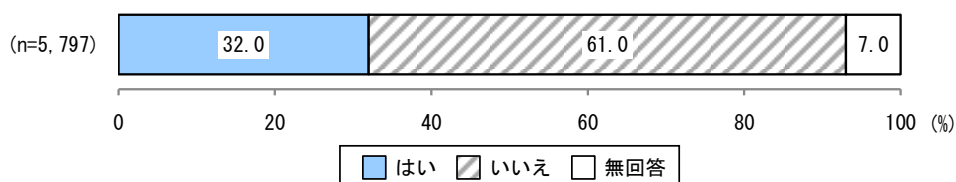
(6) うつ傾向

下記の2設問について、いずれか1つでも該当する選択肢が回答された場合、うつ傾向の高齢者として判定しました。

■うつ傾向を判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問8-5	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	「1. はい」
問8-6	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	「1. はい」

■問8-5 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。



この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった割合は、いいえが61.0%と最も高くなっています。

■問8-6 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。



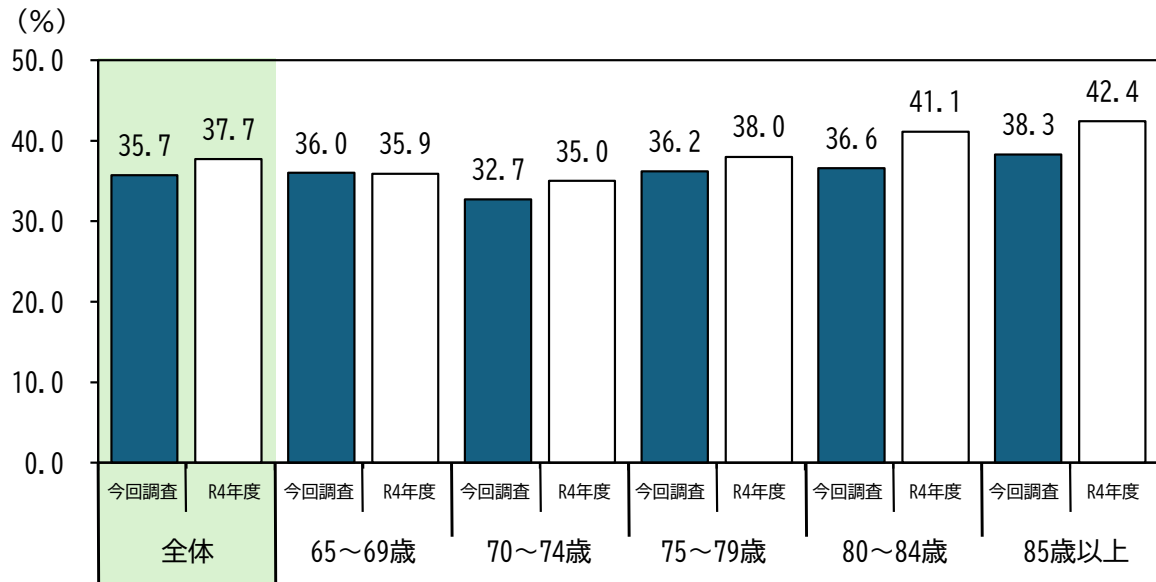
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった割合は、いいえが71.8%と最も高くなっています。

うつ傾向の高齢者の割合は 35.7% で、令和 4（2022）年度調査と大きな差はみられない。

うつ傾向と判定された高齢者の割合は、全体で 35.7% で、令和 4（2022）年度調査（37.7%）より割合が減少しています。

年齢別でみると、全ての年齢層で令和 4（2022）年度調査より割合が減少しています。

■うつ傾向 該当者の割合



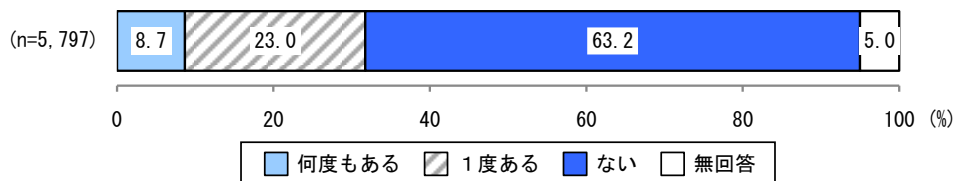
(7) 転倒リスク

下記の設問について、該当する選択肢が回答された場合、転倒リスクのある高齢者として判定しました。

■転倒リスクを判定するための項目

設問番号	設問	該当する選択肢
問2-4	過去1年間に転んだ経験がありますか。	「1. 何度もある」 「2. 1度ある」

■問2-4 過去1年間に転んだ経験がありますか。



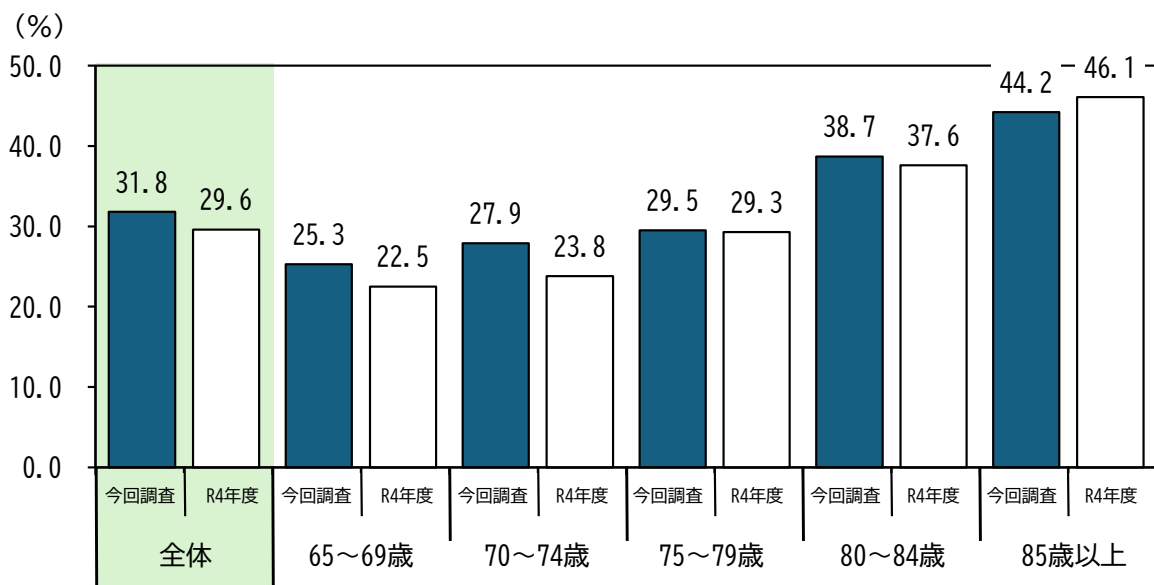
過去1年間に転んだ経験がある割合は、ないが63.2%と最も高くなっています。

転倒リスクがある高齢者の割合は31.8%で、令和4（2022）年度調査と大きな差はみられない。

転倒リスクがあると判定された高齢者の割合は、全体で31.8%で、令和4（2022）年度調査（29.6%）より割合が増加しています。

年齢別でみると、70～74歳以上（27.9%）が令和4（2022）年度調査（23.8%）より4.1ポイント増加しており、85歳以上（44.2%）は1.9ポイント減少しています。

■転倒リスク 該当者の割合【高齢者実態調査】



(8) IADLの低下

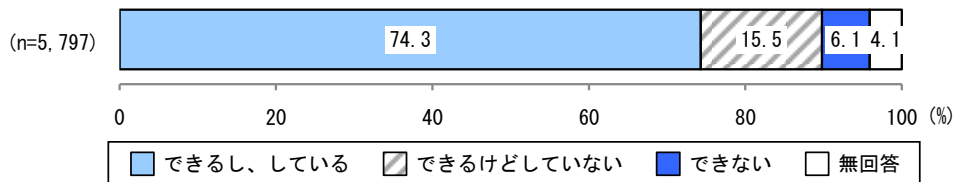
老研式活動能力指標に基づき、下記の5設問について、該当する選択肢を回答した場合を1点として、5点満点で評価し、4点以下の場合、IADL（手段的日常生活自立度）が低下している高齢者として判定しました。

※ IADL（手段的日常生活自立度）とは、買物、電話、外出等、ADL（日常生活動作：起居動作・移乗・移動・食事・更衣・排泄・入浴・整容）よりも高い自立した日常生活を送る能力をいいます。

■ IADLの低下を判定するための項目

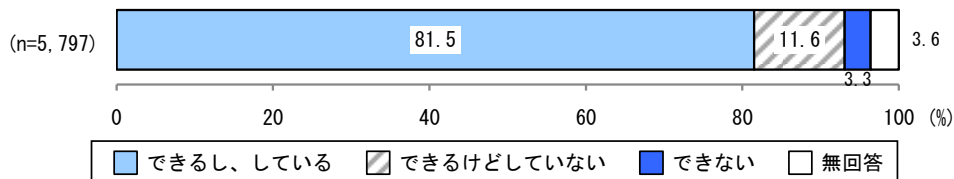
設問番号	設問	該当する選択肢
問4-3	バスや電車を使って一人で外出していますか（自家用車でも可）。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-4	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-5	自分で食事の用意をしていますか。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-6	自分で請求書の支払いをしていますか。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」
問4-7	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	「1. できるし、している」 「2. できるけどしていない」

■問4-3 バスや電車を使って一人で外出していますか (自家用車でも可)。



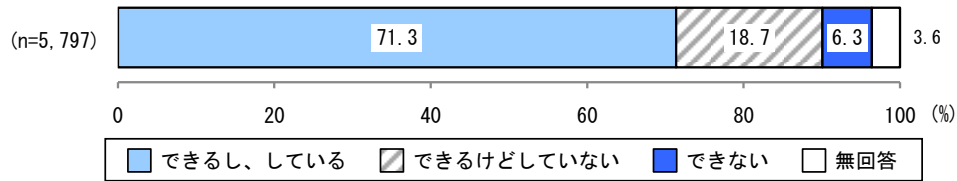
バスや電車を使って一人で外出している割合は、できるし、しているが74.3%と最も高くなっています。

■問4-4 自分で食品・日用品の買物をしていますか。



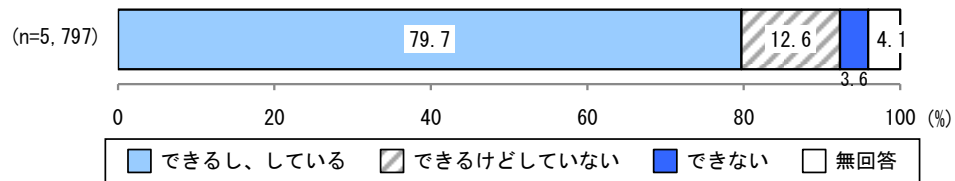
自分で食品・日用品の買物をしている割合は、できるし、しているが81.5%と最も高くなっています。

■問4-5 自分で食事の用意をしていますか。



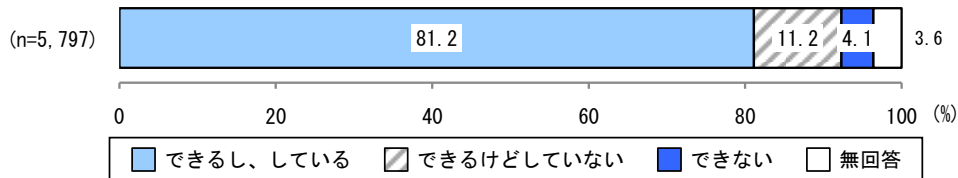
自分で食事の用意をしている割合は、できるし、しているが71.3%と最も高くなっています。

■問4-6 自分で請求書の支払いをしていますか。



自分で請求書の支払いをしている割合は、できるし、しているが79.7%と最も高くなっています。

■問4-7 自分で預貯金の出し入れをしていますか。



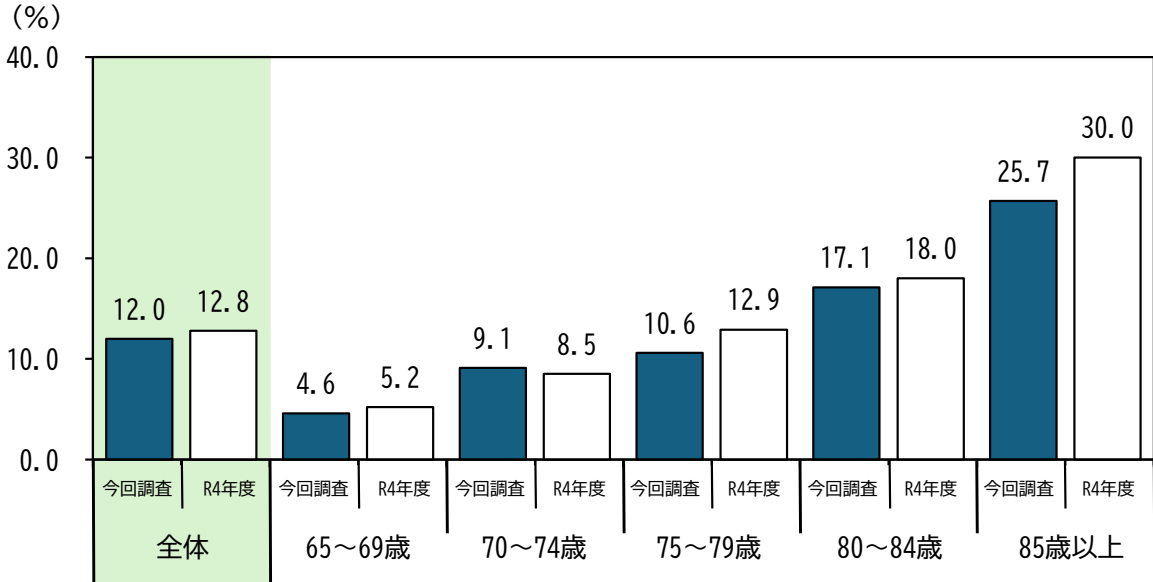
自分で預貯金の出し入れをしている割合は、できるし、しているが81.2%と最も高くなっています。

IADL（手段的日常生活自立度）が低下している高齢者の割合は12.0%で、令和4（2022）年度調査と大きな差はみられない。

IADLが低下していると判定された高齢者の割合は、全体で12.0%で、令和4（2022）年度調査（12.8%）と大きな差はみられません。

年齢別でみると、85歳以上（25.7%）が令和4（2022）年度調査（30.0%）より4.3ポイント減少しています。

■ IADLの低下 該当者の割合



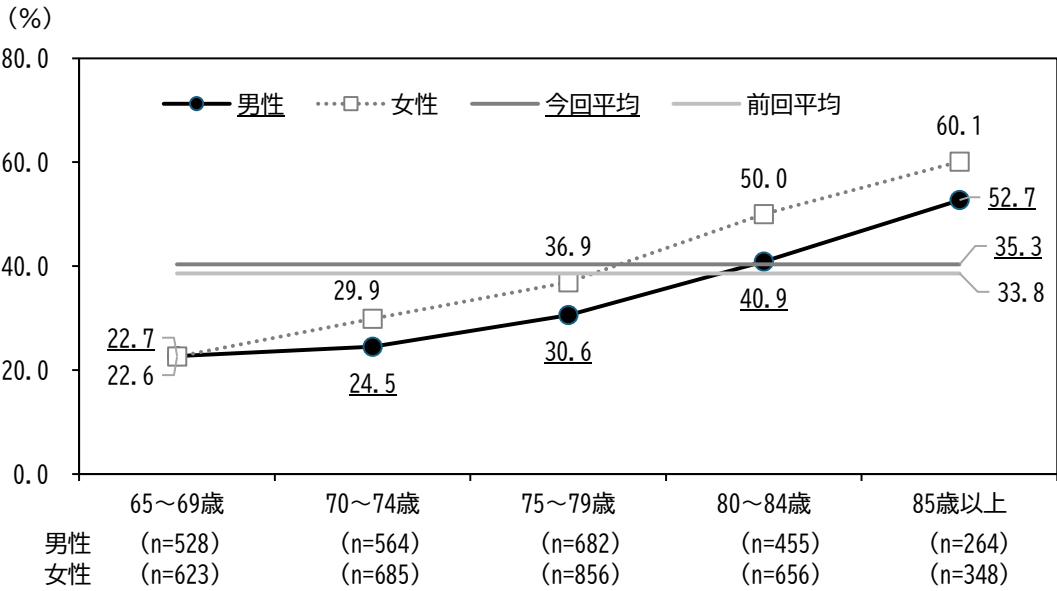
(9) 事業対象者

事業対象者と判定された高齢者の割合は、全体で35.3%。

運動器機能の低下、低栄養状態、口腔機能の低下のいずれかに該当している場合、事業対象者として判定しました。

事業対象者と判定された高齢者の割合は、全体で35.3%となっており、令和4（2022）年度調査（33.8%）より1.5ポイント増加しています。

■事業対象者 該当者の割合



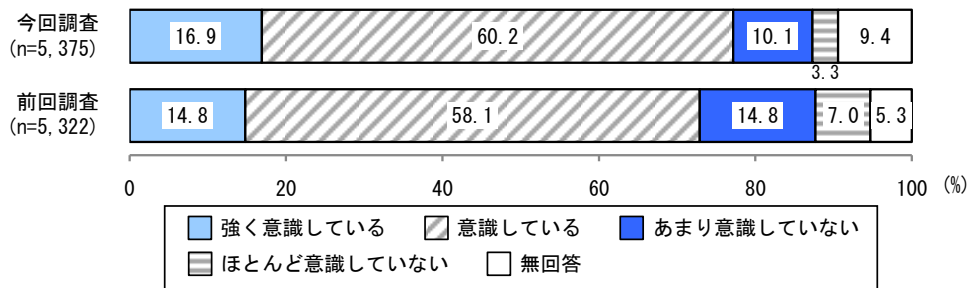
(10) 普段から介護予防のために健康維持・増進を意識しているか

普段から介護予防のために健康維持・増進を意識している人が増加している。

普段から介護予防のために健康維持・増進を意識しているかについては、「意識している」が60.2%で最も高く、次いで「強く意識している」が16.9%、「あまり意識していない」が10.1%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、『意識していない』（「あまり意識していない」と「ほとんど意識していない」の合計）（13.4%）では、令和4（2022）年度調査（21.8%）より8.4ポイント減少しています。

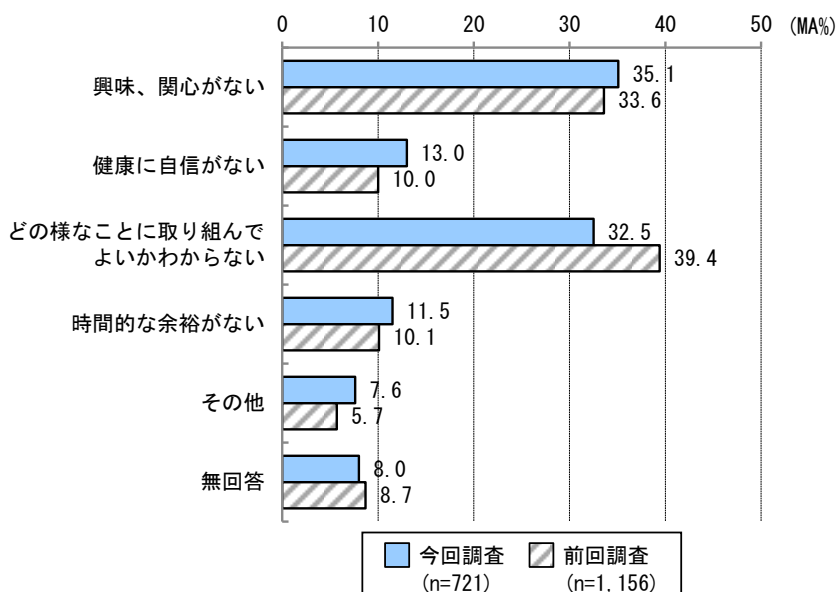
■ 普段から介護予防のために健康維持・増進を意識しているか。



『意識していない』と回答した方の健康維持・増進を意識していない理由については、「興味、関心がない」が35.1%で最も高く、次いで「どの様なことに取り組んでよいかわからない」が32.5%、「健康に自信がない」が13.0%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「どの様なことに取り組んでよいかわからない」（32.5%）では、令和4（2022）年度調査（39.4%）より6.9ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

■ 健康維持・増進を意識していない理由



2 社会参加状況【高齢者実態調査】

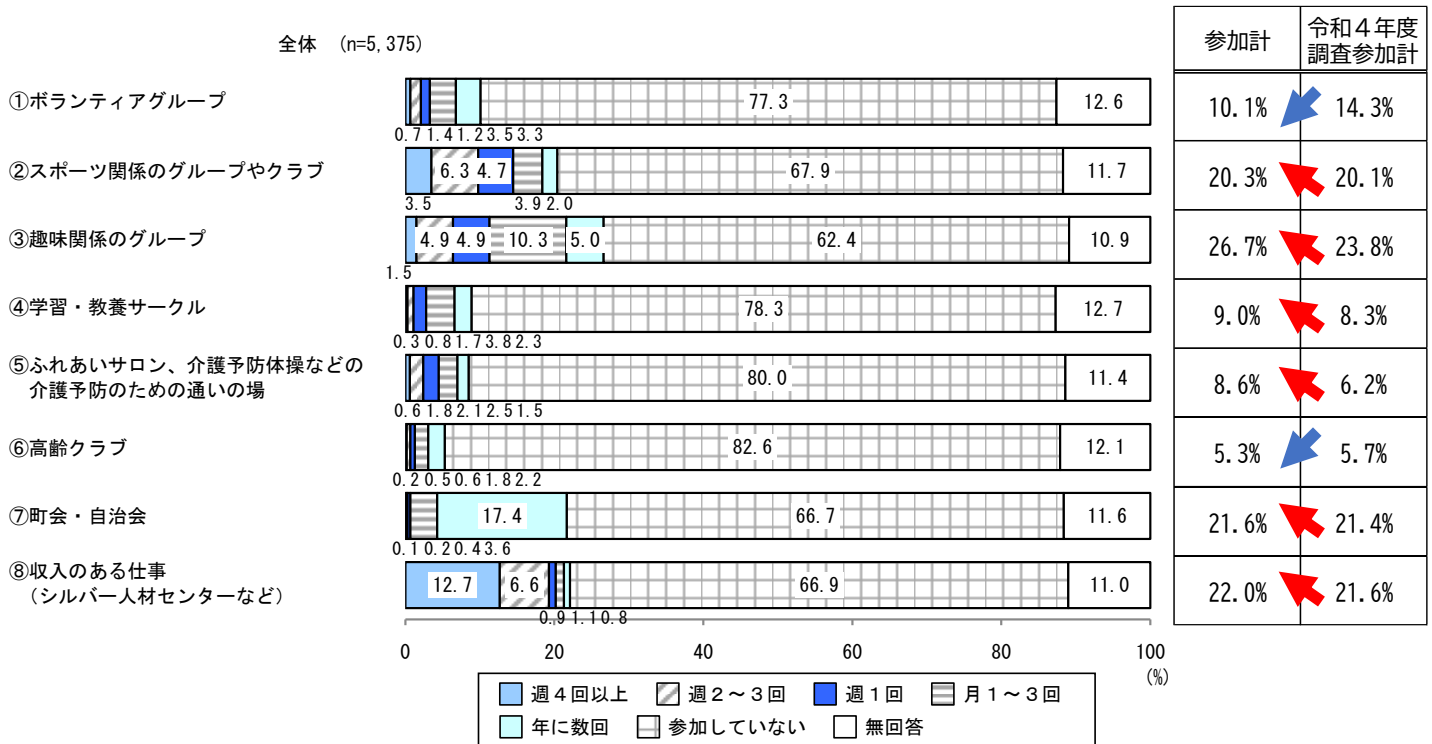
(1) 地域の会・グループへの参加頻度

「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」、「学習・教養サークル」、「介護予防のための通いの場」、「町会・自治会」、「収入のある仕事（シルバー人材センターなど）」への参加割合が増加している一方、「ボランティアグループ」「高齢クラブ」への参加割合が減少している。

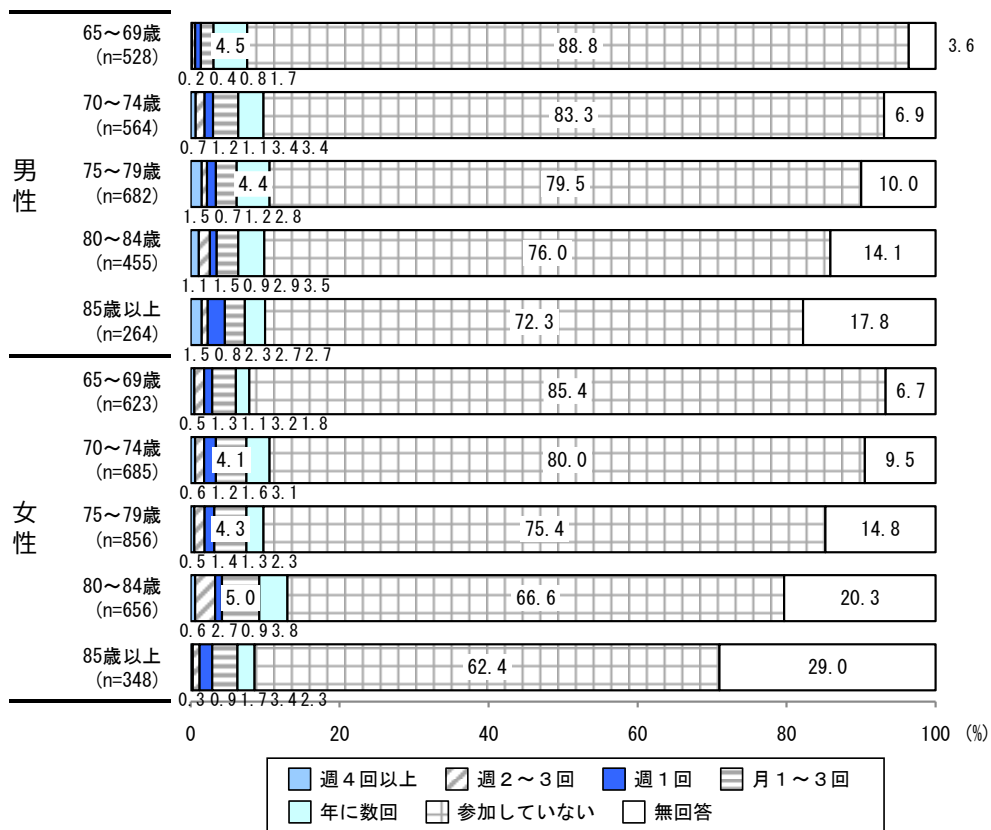
地域の会・グループへの参加頻度について、『参加計』（「週4回以上」から「年に数回」までの合計）で見ると、「③趣味関係のグループ」が26.6%で最も高く、次いで「⑧収入のある仕事（シルバー人材センターなど）」が22.1%、「⑦町会・自治会」が21.7%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、『参加計』では、「①ボランティアのグループ」、「⑥高齢クラブ」を除く全ての地域の会・グループで令和4（2022）年度調査より割合が増加しています。

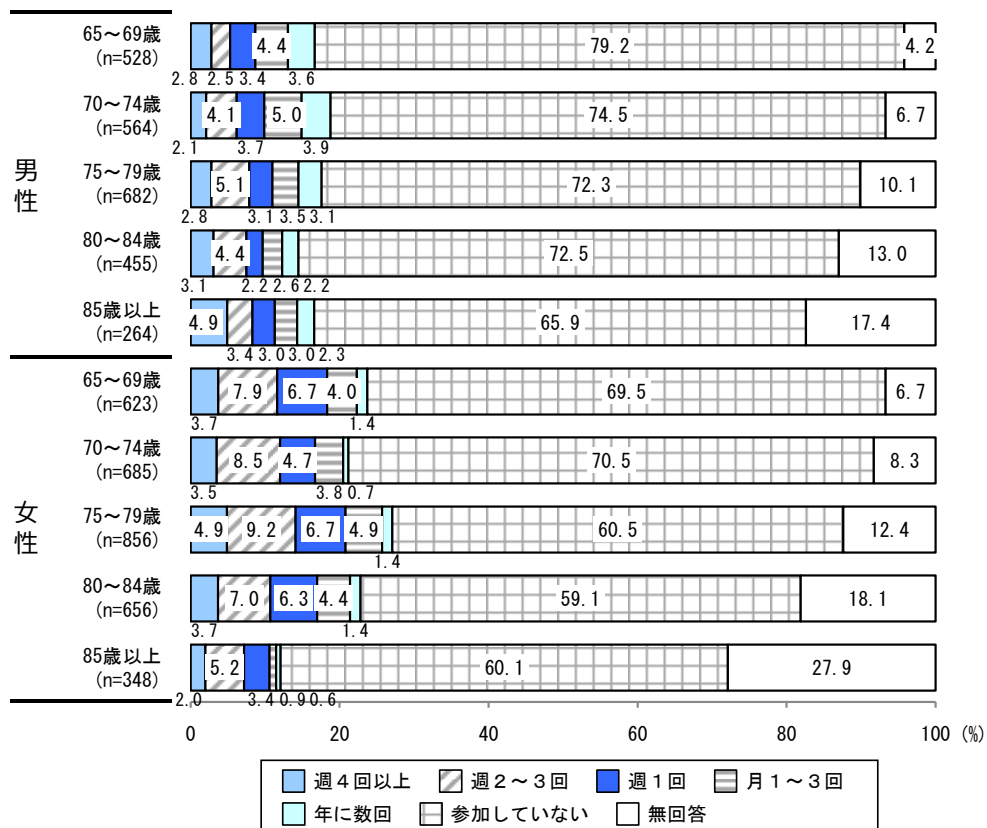
■地域の会・グループへの参加頻度



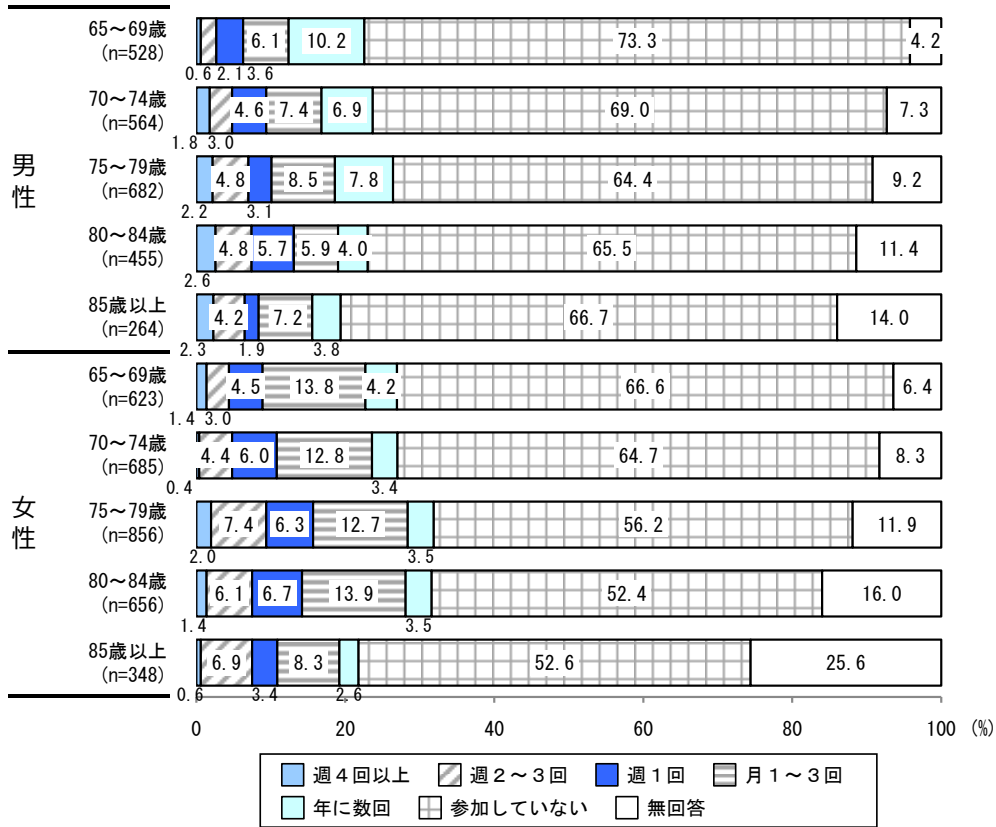
■① ボランティアのグループへの参加割合 性年齢別



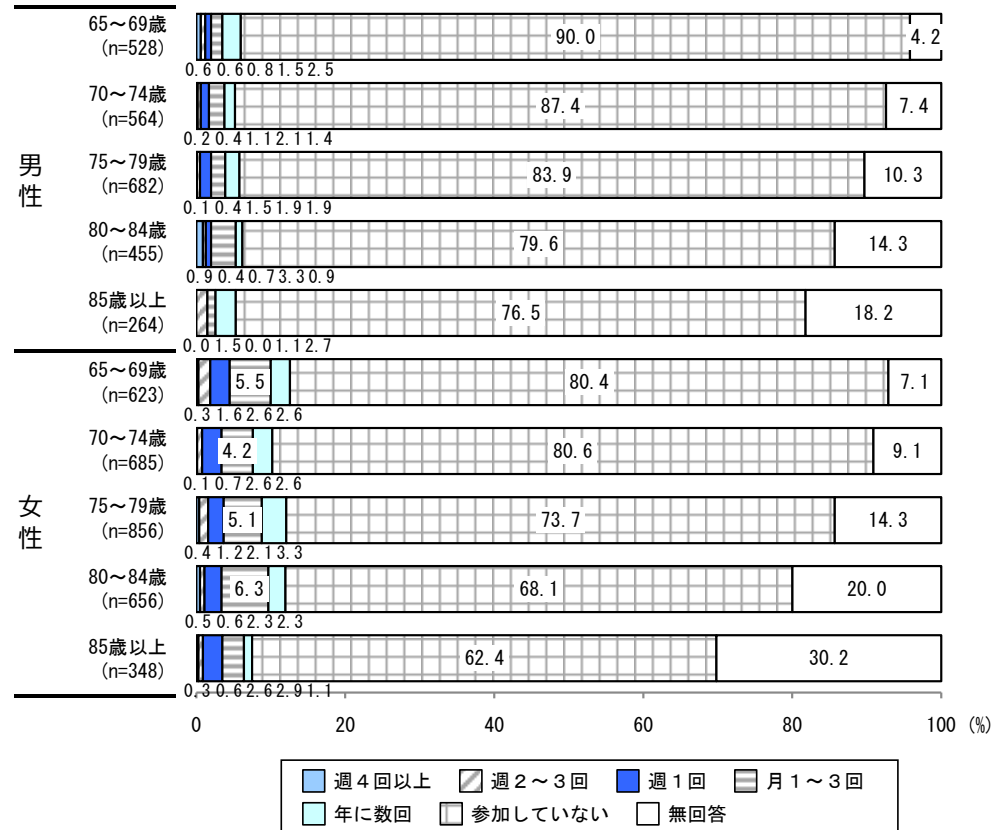
■② スポーツ関係のグループやクラブへの参加割合 性年齢別



■③ 趣味関係のグループへの参加割合 性年齢別

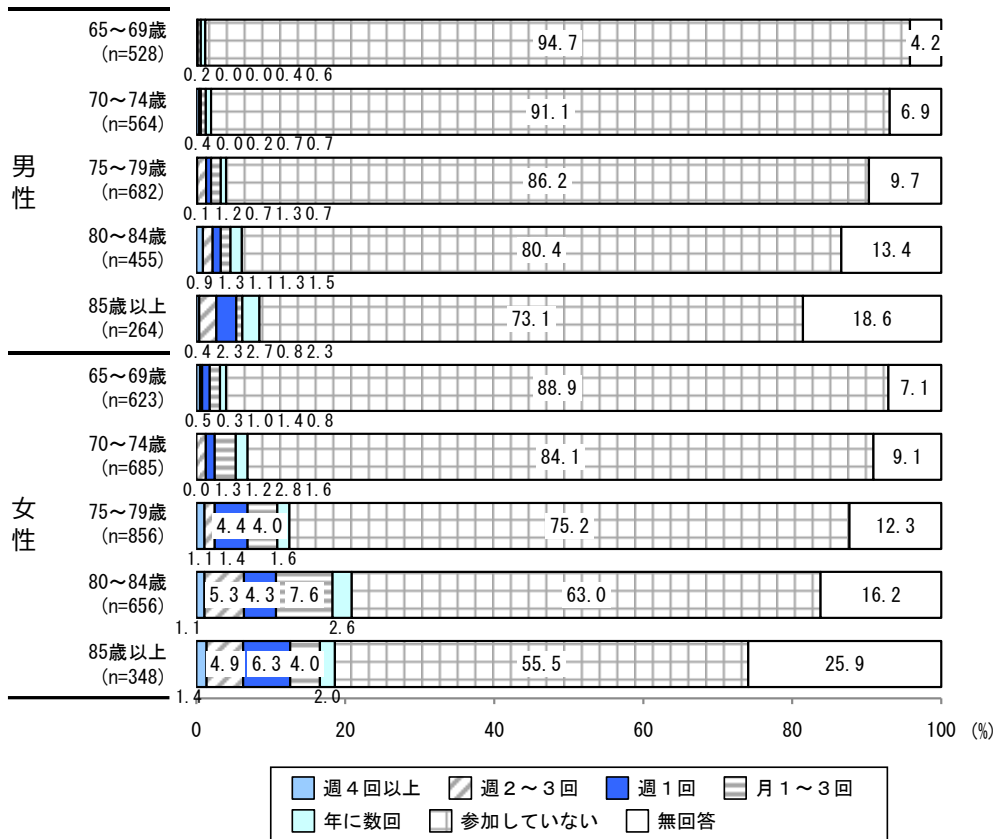


■④ 学習・教養サークルへの参加割合 性年齢別

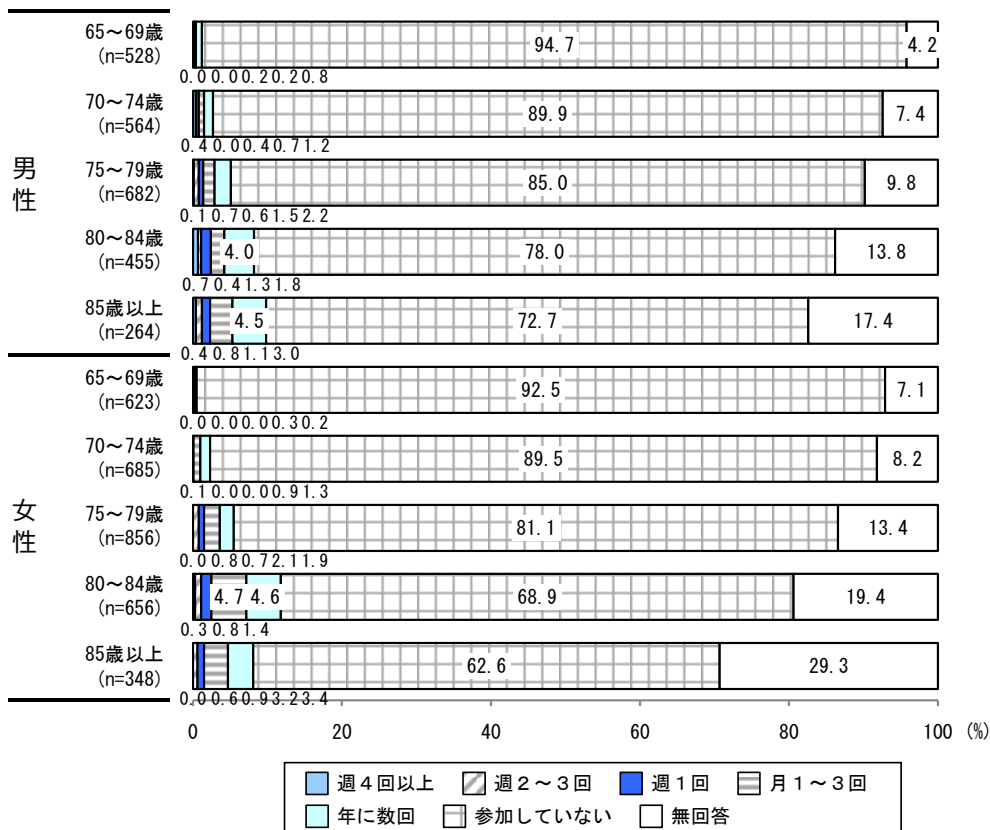


■⑤ ふれあいサロン、介護予防体操などの介護予防のための通いの場への参加割合

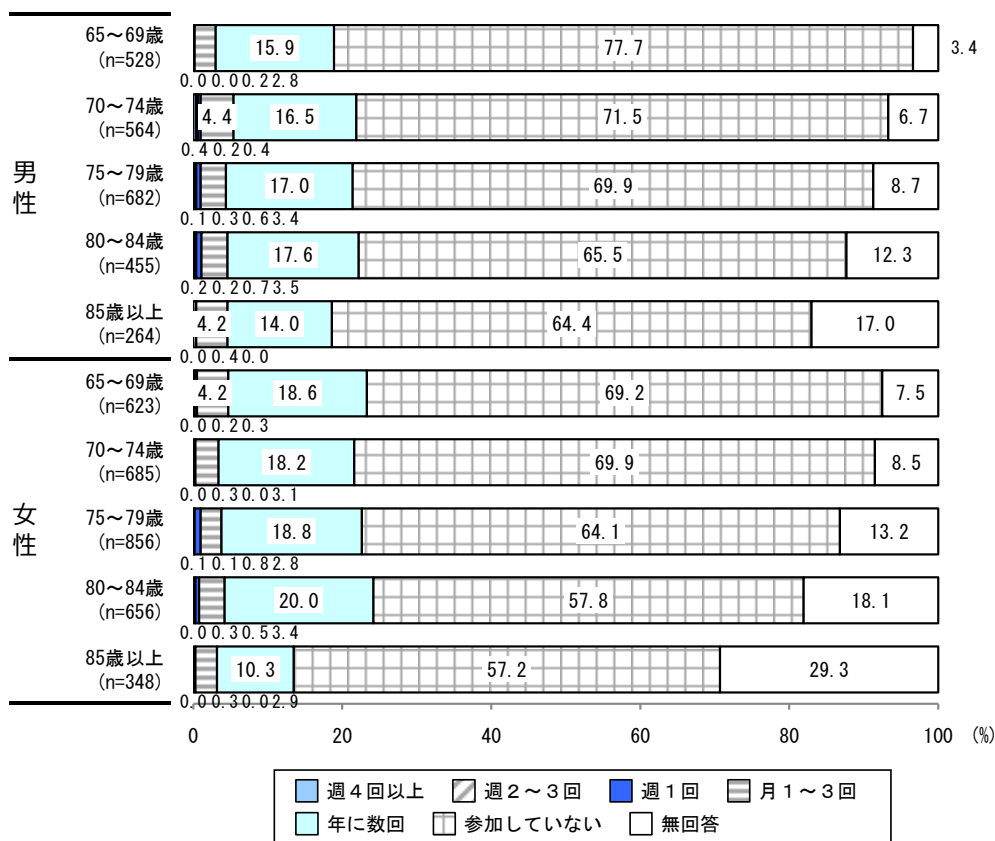
性年齢別



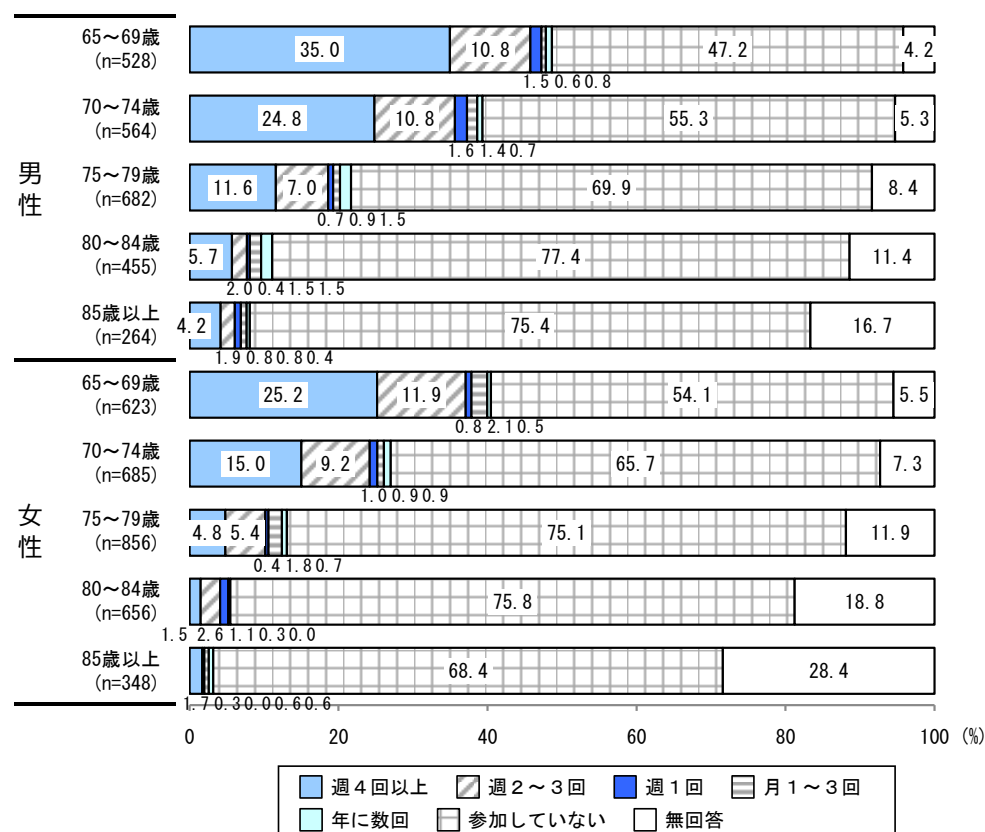
■⑥ 高齢クラブへの参加割合 性年齢別



■⑦ 町会・自治会への参加割合 性年齢別



■⑧ 収入のある仕事（シルバー人材センターなど）への参加割合 性年齢別



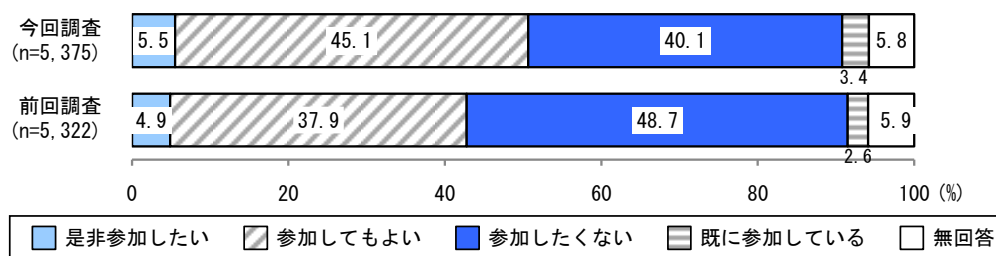
(2) 参加者としての地域活動への参加意向

参加者として、地域活動への参加意向がある人が増加している。

参加者としての地域活動への参加意向については、「参加してもよい」が45.1%で最も高く、次いで「参加したくない」が40.1%、「是非参加したい」が5.5%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、『参加意向がある』（「是非参加したい」と「参加してもよい」、「既に参加している」の合計）（54.0%）では、令和4（2022）年度調査（45.4%）より8.6ポイント増加しています。

■参加者としての地域活動への参加意向



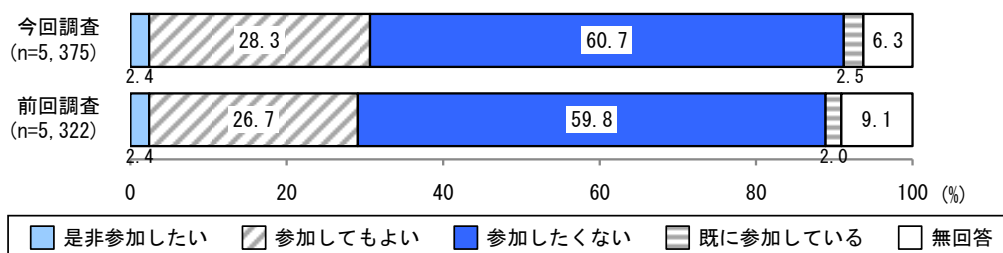
(3) 企画・運営としての地域活動への参加意向

企画・運営として、地域活動への参加意向がある人が増加している。

企画・運営としての地域活動への参加意向については、「参加したくない」が60.7%で最も高く、次いで「参加してもよい」が28.3%、「既に参加している」が2.5%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「参加してもよい」（28.3%）では、令和4（2022）年度調査（26.7%）より1.6ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

■企画・運営としての地域活動への参加意向【高齢者実態調査】



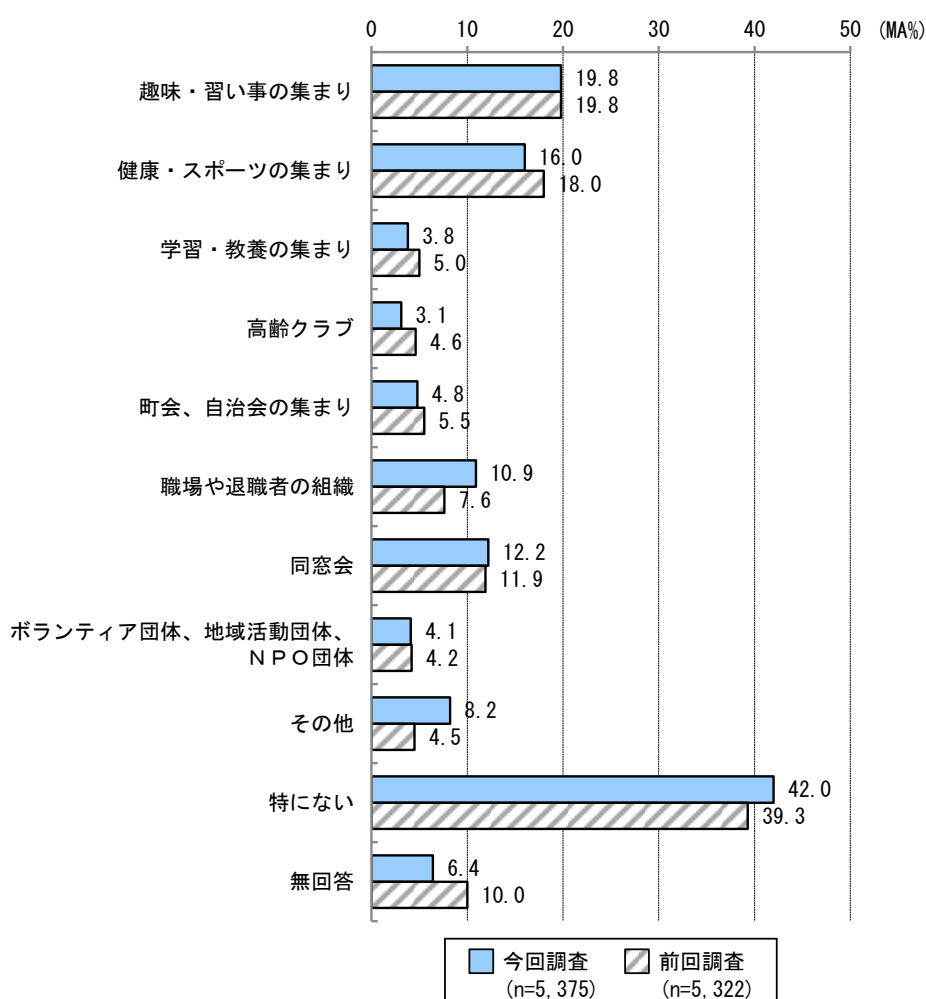
(4) 居場所を感じることができる集まりはあるか

居場所を感じることができる集まりがない人が増加している。

居場所を感じることができる集まりはあるかについては、「特にない」が42.0%で最も高く、次いで「趣味、習い事の集まり」が19.8%、「健康、スポーツの集まり」が16.0%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「職場や退職者の組織」（10.9%）では、令和4（2022）年度調査（7.6%）より3.3ポイント増加し、最も増加した項目となっています。（「その他」は3.7ポイント増加していますが、ここでは除外しています。）

■居場所を感じることができる集まりはあるか



3 地域包括ケアシステムの構築に向けたニーズ【高齢者実態調査】

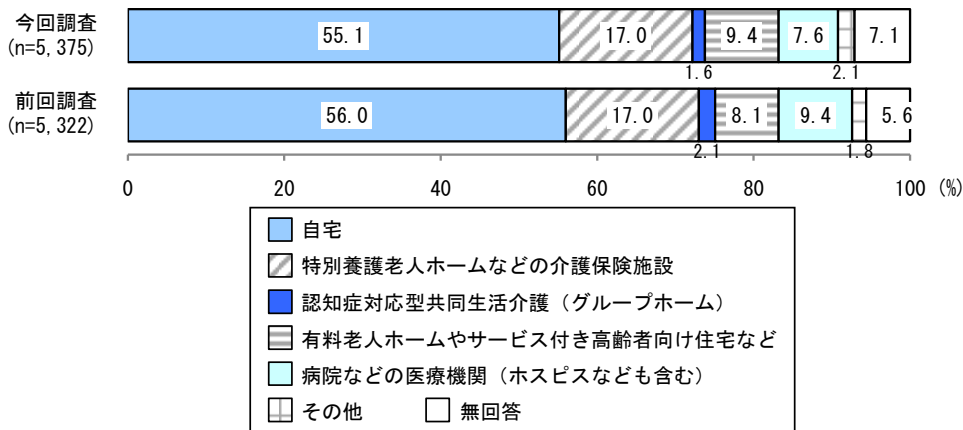
(1) 医療・介護が必要となったときに暮らしたい場所

医療・介護が必要となったときに有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などで暮らしたい人が増加している。

医療・介護が必要となったときに暮らしたい場所については、「自宅」が55.1%で最も高く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」が17.0%、「有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など」が9.4%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「病院などの医療機関」（7.6%）では、令和4（2022）年度調査（9.4%）より1.8ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

■医療・介護が必要となったときに暮らしたい場所



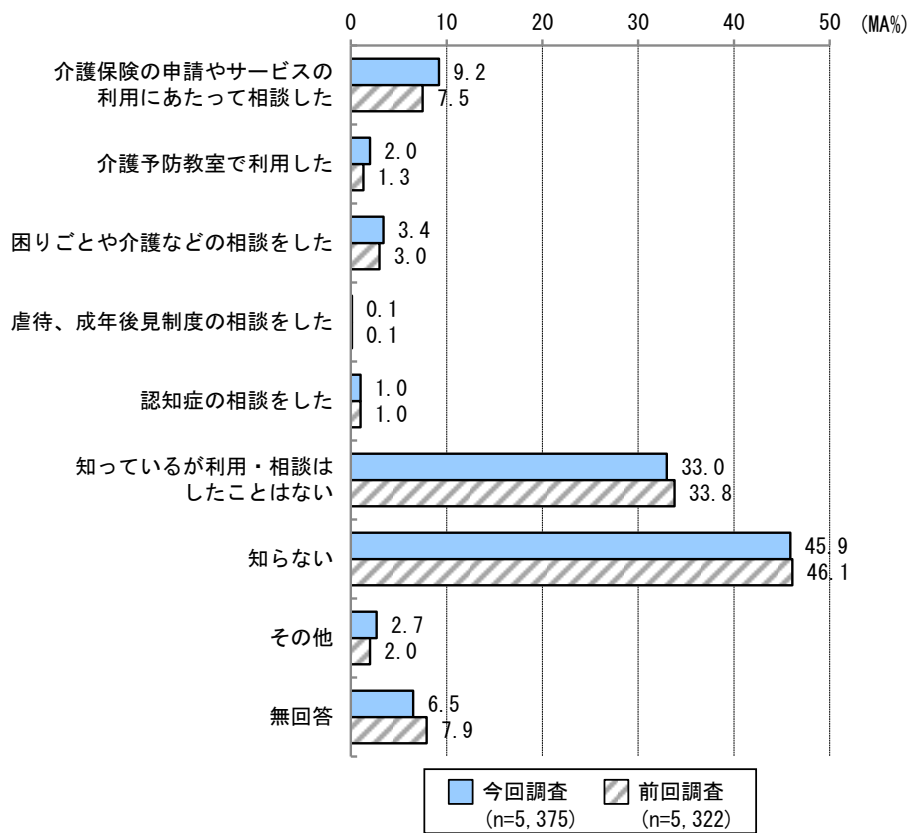
(2) 高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験

高齢者あんしんセンターを知らない人については約5割である。

高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験については、「知らない」が45.9%で最も高く、次いで「知っているが利用・相談したことはない」が33.0%、「介護保険の申請やサービスの利用にあたって相談した」が9.2%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「介護保険の申請やサービスの利用にあたって相談した」（9.2%）では、令和4（2022）年度調査（7.5%）より1.7ポイント増加し、最も増加した項目となっています。

■ 高齢者あんしんセンターの認知度と利用経験

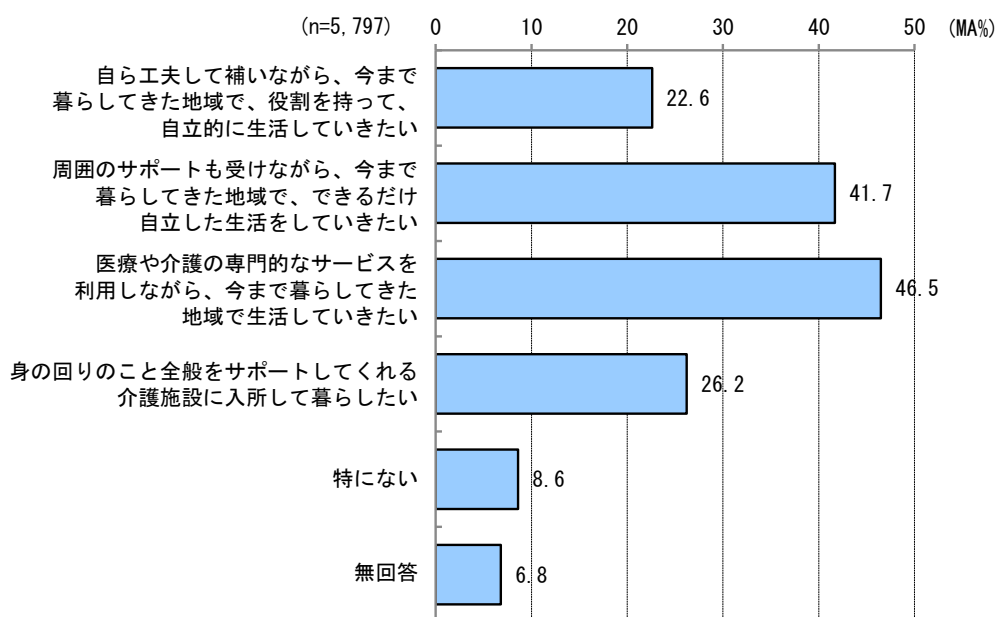


(3) 認知症になった時の暮らし方の希望

認知症になった時の暮らし方の希望については、サービス利用やサポートを受けながら、地域で暮らすことを希望する人が多い。

認知症になった時の暮らし方の希望については、「医療や介護の専門的なサービスを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していきたい」が46.5%で最も高く、次いで「周囲のサポートも受けながら、今まで暮らしてきた地域で、できるだけ自立した生活をしていきたい」が41.7%、「身の回りのこと全般をサポートしてくれる介護施設に入所して暮らしたい」が26.2%と続いています。

■ 認知症になった時の暮らし方の希望

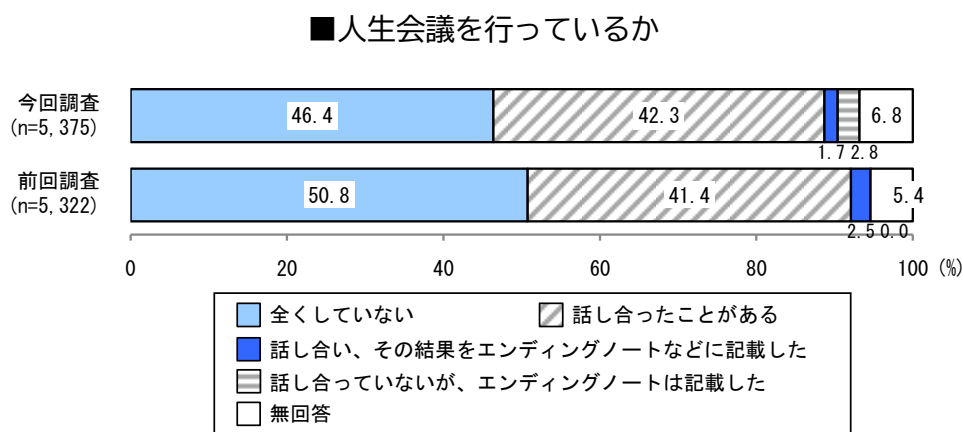


(4) 人生会議を行っているか

人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）を行っている人が、令和4（2022）年度調査より増加している。

人生会議を行っているかについては、「全くしていない」が46.4%で最も高く、次いで「話し合ったことがある」が42.3%、「話し合っていないが、エンディングノートは記載した」が2.8%と続いています。

令和4（2022）年度調査と比較すると、「全くしていない」（46.4%）では、令和4（2022）年度調査（50.8%）より4.4ポイント減少しています。



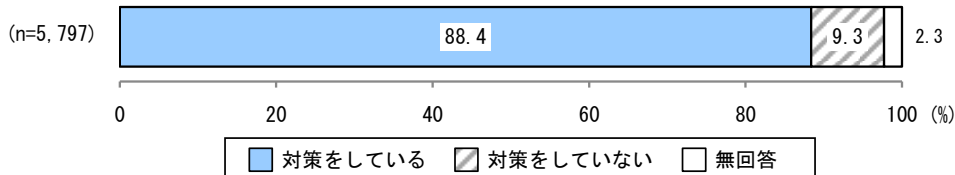
※前回調査では「話し合っていないが、エンディングノートは記載した」の項目なし

(5) 熱中症対策を行っているか

熱中症対策を行っている方が約9割で、様々な対策がとられている。

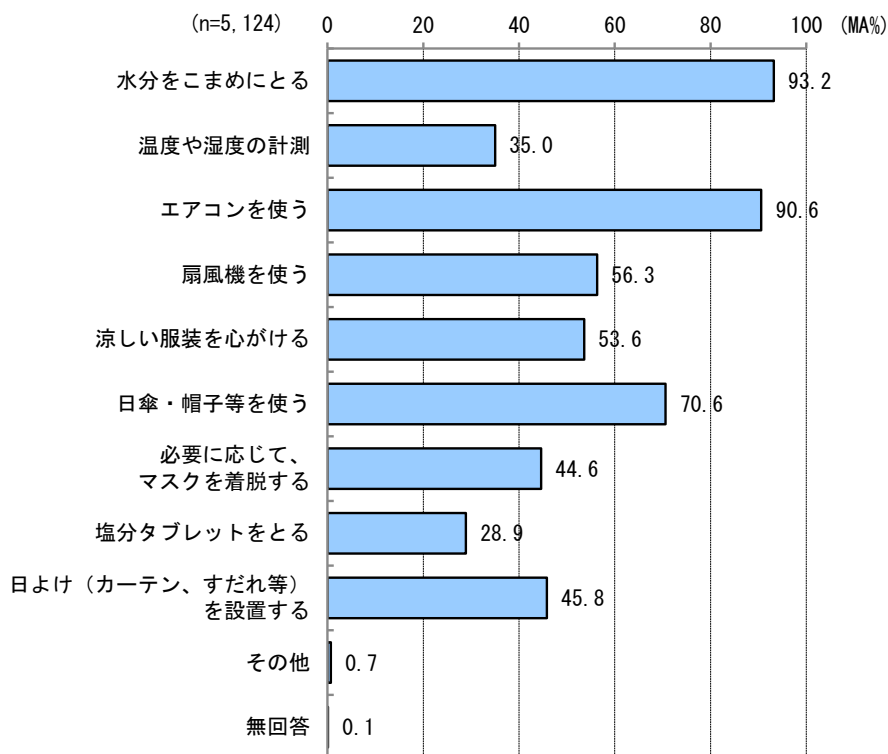
熱中症対策を行っているかについては、「対策をしている」が 88.4%、「対策をしていない」が 9.3%となっています。

■熱中症対策を行っているか



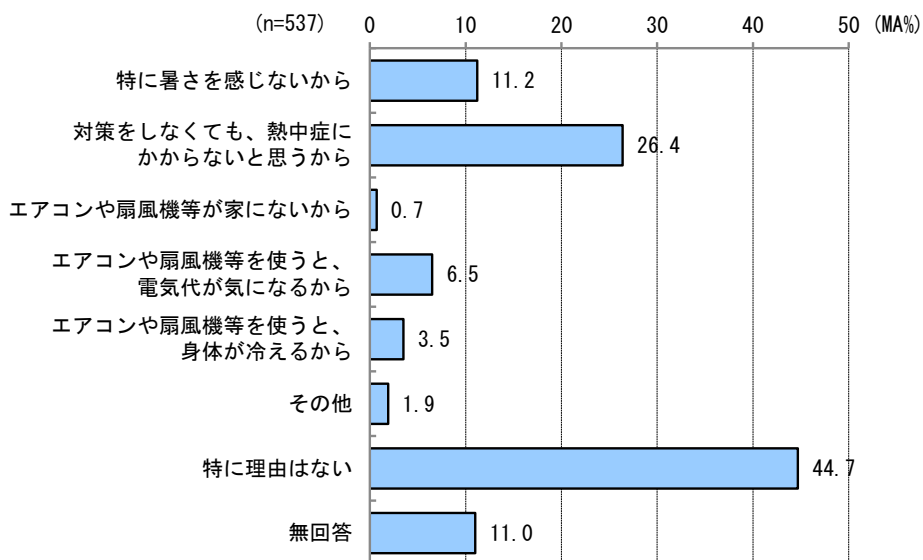
『対策をしている』と回答した方の熱中症対策方法については、「水分をこまめにとる」が 93.2%で最も高く、次いで「エアコンを使う」が 90.6%、「日傘・帽子等を使う」が 70.6%と続いています。

■熱中症対策方法



『対策をしていない』と回答した方の熱中症対策をしていない理由については、「特に理由はない」が44.7%で最も高く、次いで「対策をしなくても、熱中症にかからないと思うから」が26.4%、「特に暑さを感じないから」が11.2%と続いています。

■熱中症対策をしていない理由



4 介護サービスのニーズ【高齢者実態調査】

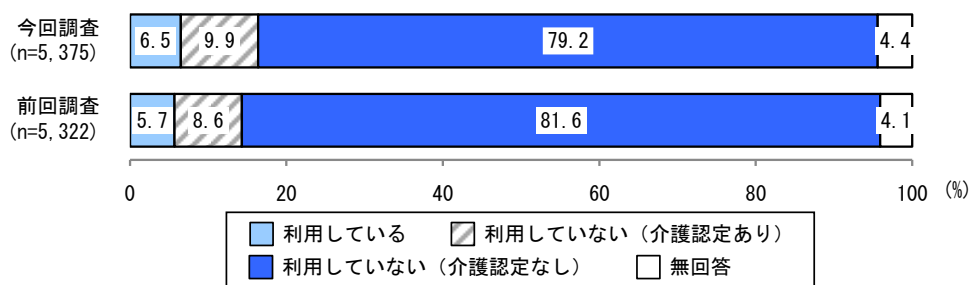
(1) 介護保険サービスの利用状況

訪問看護の利用が、令和4（2022）年度調査より増加している。

介護保険サービスの利用状況については、「利用していない（介護認定なし）」が79.2%で最も高く、次いで「利用していない（介護認定あり）」が9.9%、「利用している」が6.5%となっています。

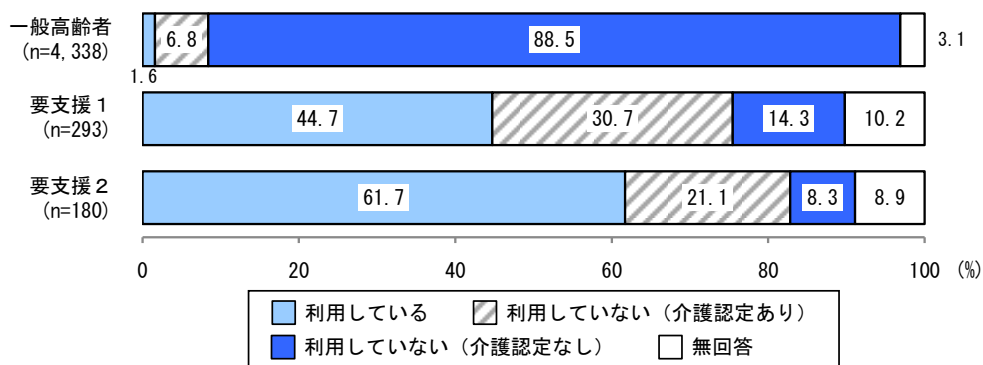
令和4（2022）年度調査と比較すると、「利用していない（介護認定なし）」（79.2%）では、令和4（2022）年度調査（81.6%）より2.4ポイント減少し、最も減少した項目となっています。

■介護保険サービスの利用状況



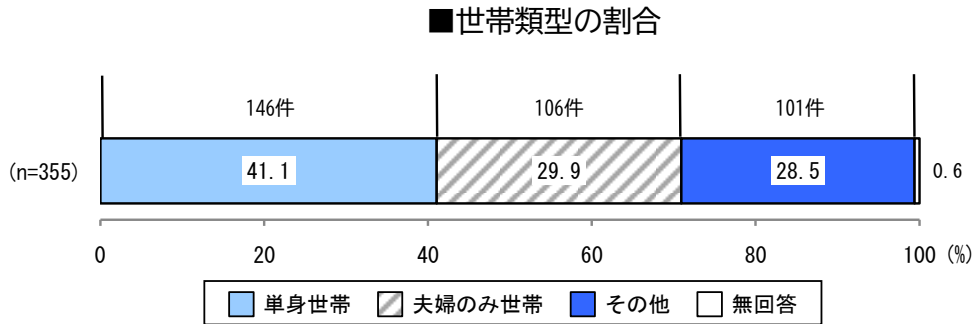
認定状況別でみると、「利用している」では、要介護度が上がるにつれて割合が増加しており、要支援2が61.7%で最も高くなっています。

■介護保険サービスの利用状況 認定状況別

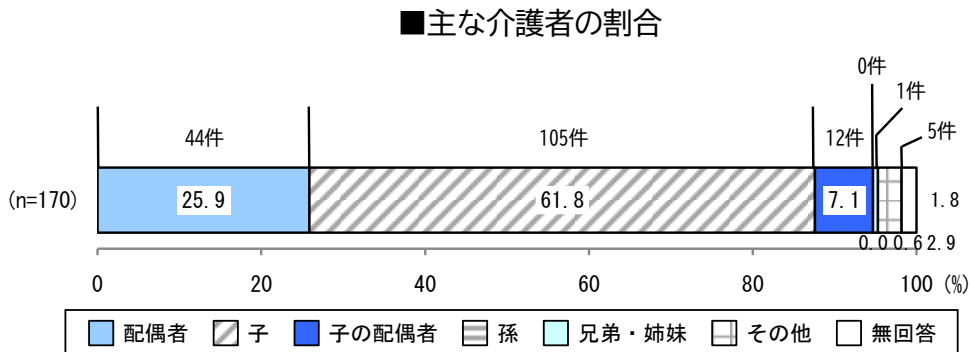


在宅介護実態調査の属性

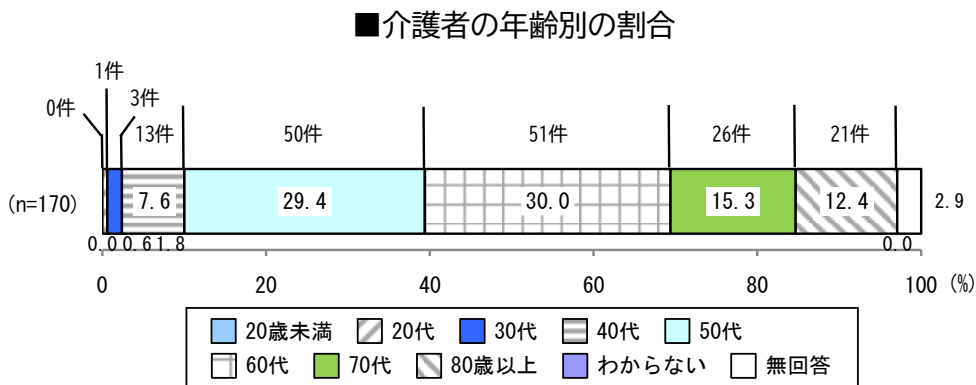
介護者についての世帯類型では、単身世帯の割合が最も高くなっています。



介護者についての主な介護者では、子の割合が最も高くなっています。



介護者についての年代別では、60代の割合が最も高くなっています。



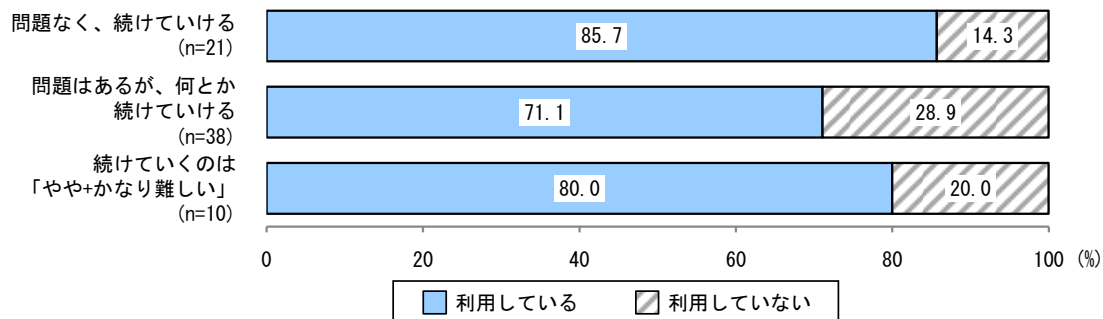
5 介護者の就労継続や在宅生活の継続に効果的なサービス利用の動向などについて【在宅介護実態調査】

(1) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

① 必要となるサービスの詳細な把握と、適切なサービス利用の推進

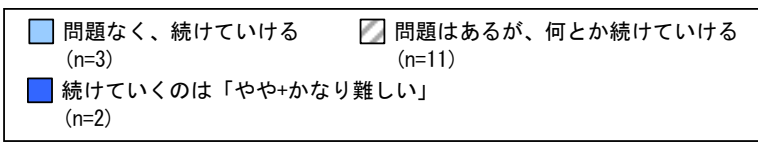
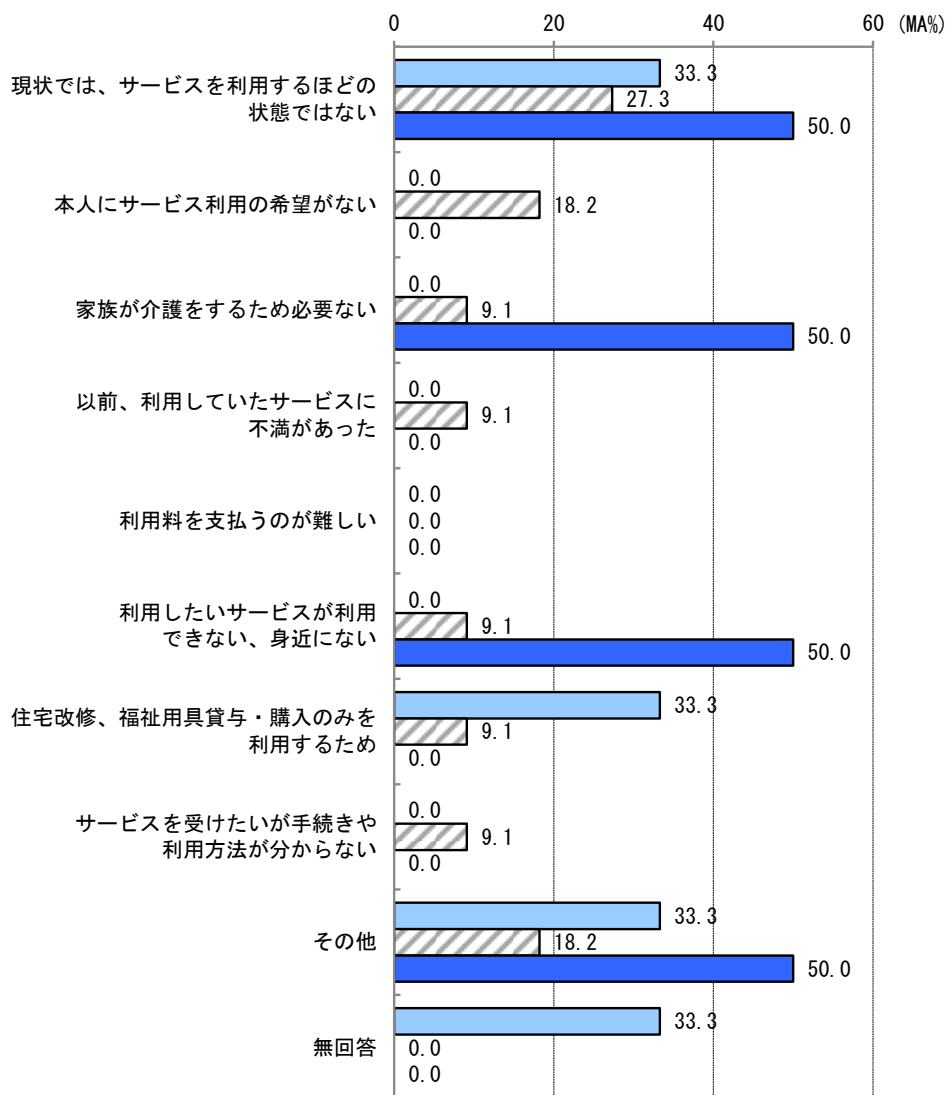
介護保険サービスの利用状況について、就労継続見込みを「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」と考えている人では、「問題なく、続けていける」人に比べて、介護保険サービスの利用割合が低くなっていました。

■介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務） 就労継続見込み別



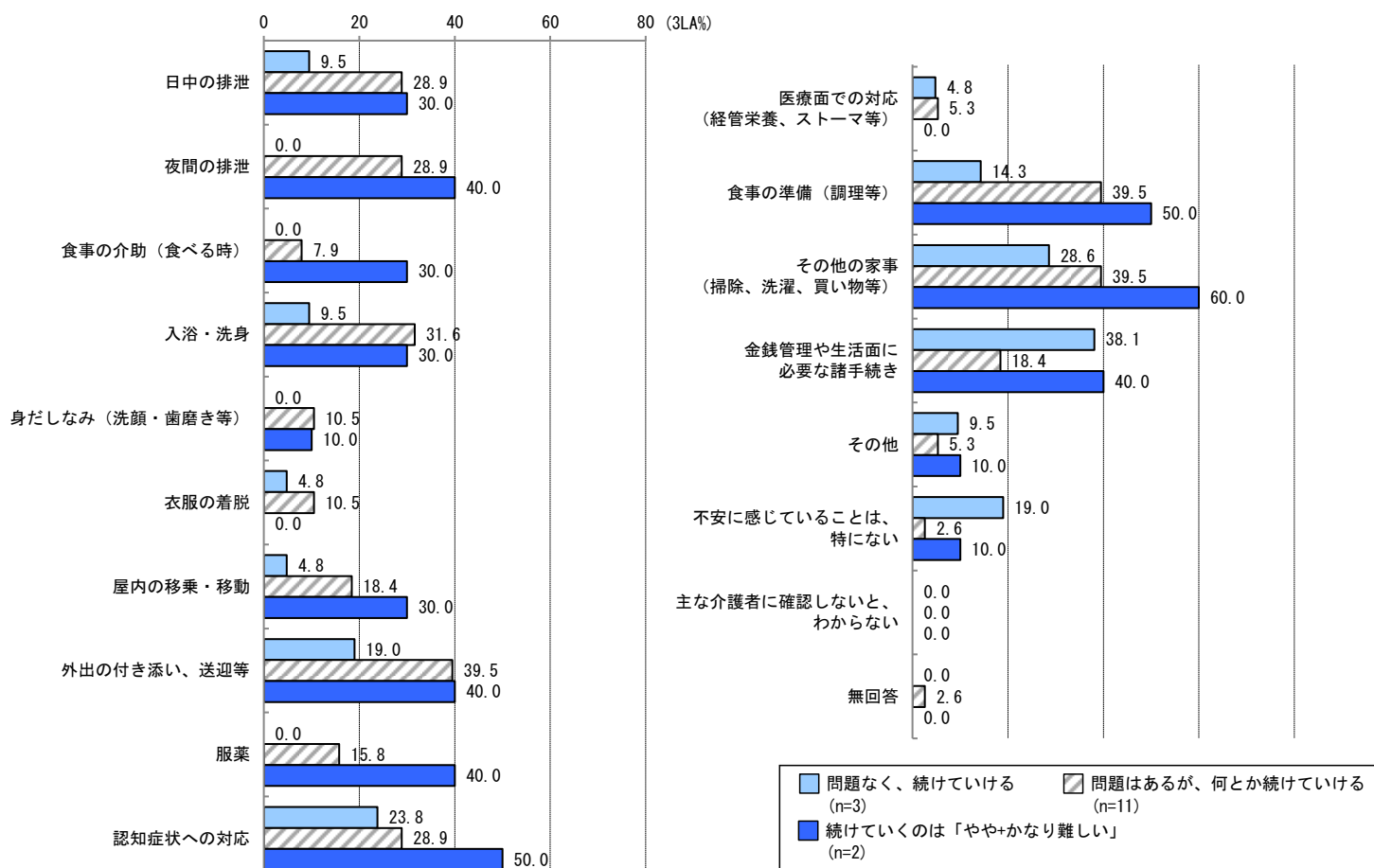
就労継続見込みを「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」と考えている人では、サービス未利用の理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状況ではない」、「家族が介護をするため必要ない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」の割合が高く、現状、サービス利用の必要性は低いことがうかがえます。

■サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務） 就労継続見込み別



また、就労継続見込みを「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」と考えている人では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「食事の準備（調理等）」、「認知症状への対応」の割合が5割以上と高くなっていました。

■介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務+パートタイム勤務） 就労継続見込み別

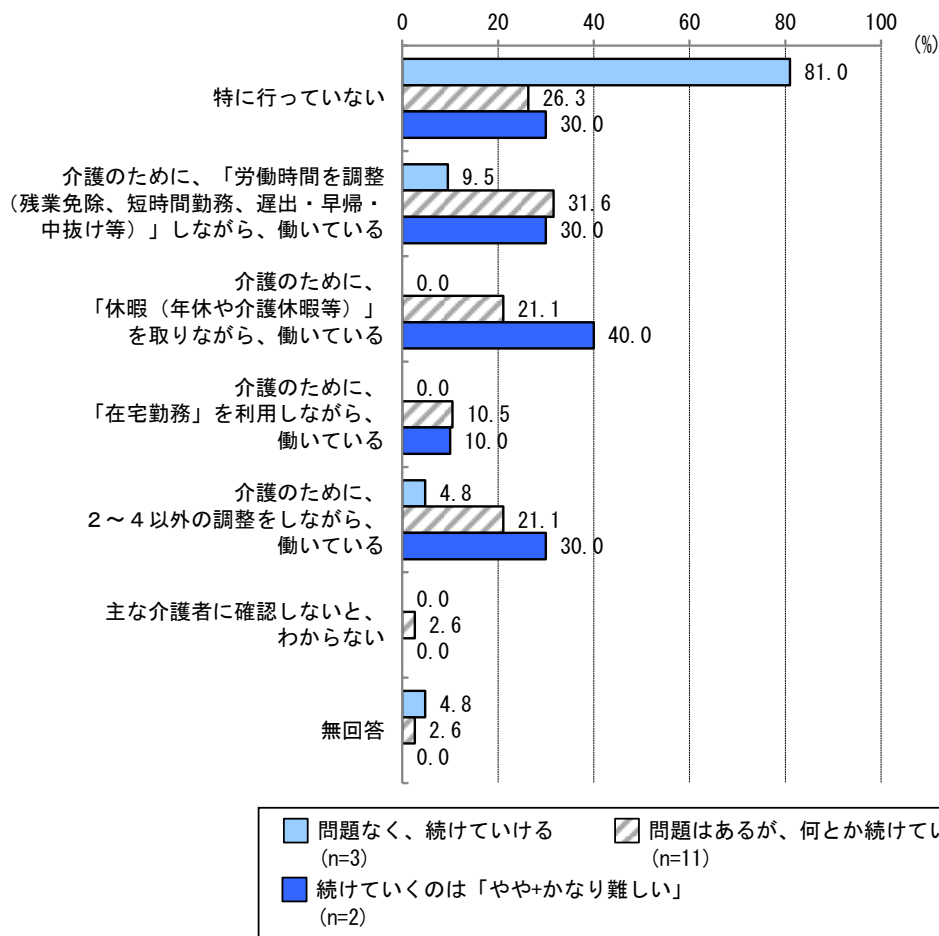


② 仕事と介護の両立に向けた、職場における支援・サービスの検討

介護のための働き方の調整について、「問題なく、続けていける」と考えている人では、そうでない方に比べて、「労働時間の調整」、「休暇取得」、「在宅勤務」などの調整をしながら働いている割合が低い傾向がみられました。

一方、「問題はあるが、何とか続けていける」と考えている人では、「労働時間の調整」、「休暇取得」、「他の方法での就労調整」など、何らかの調整を行っている人が多くなっていました。

■介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務） 就労継続見込み別

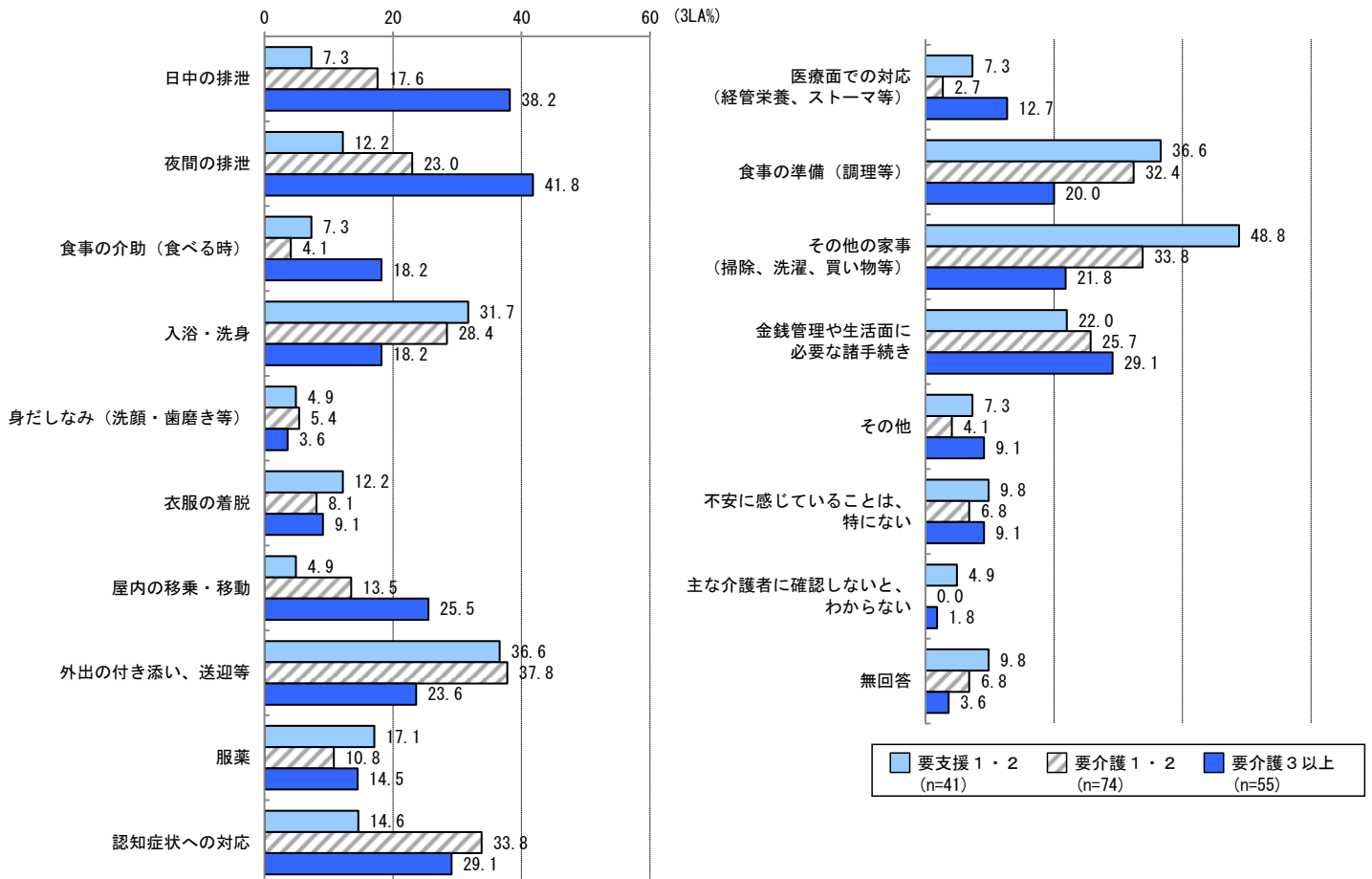


(2) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

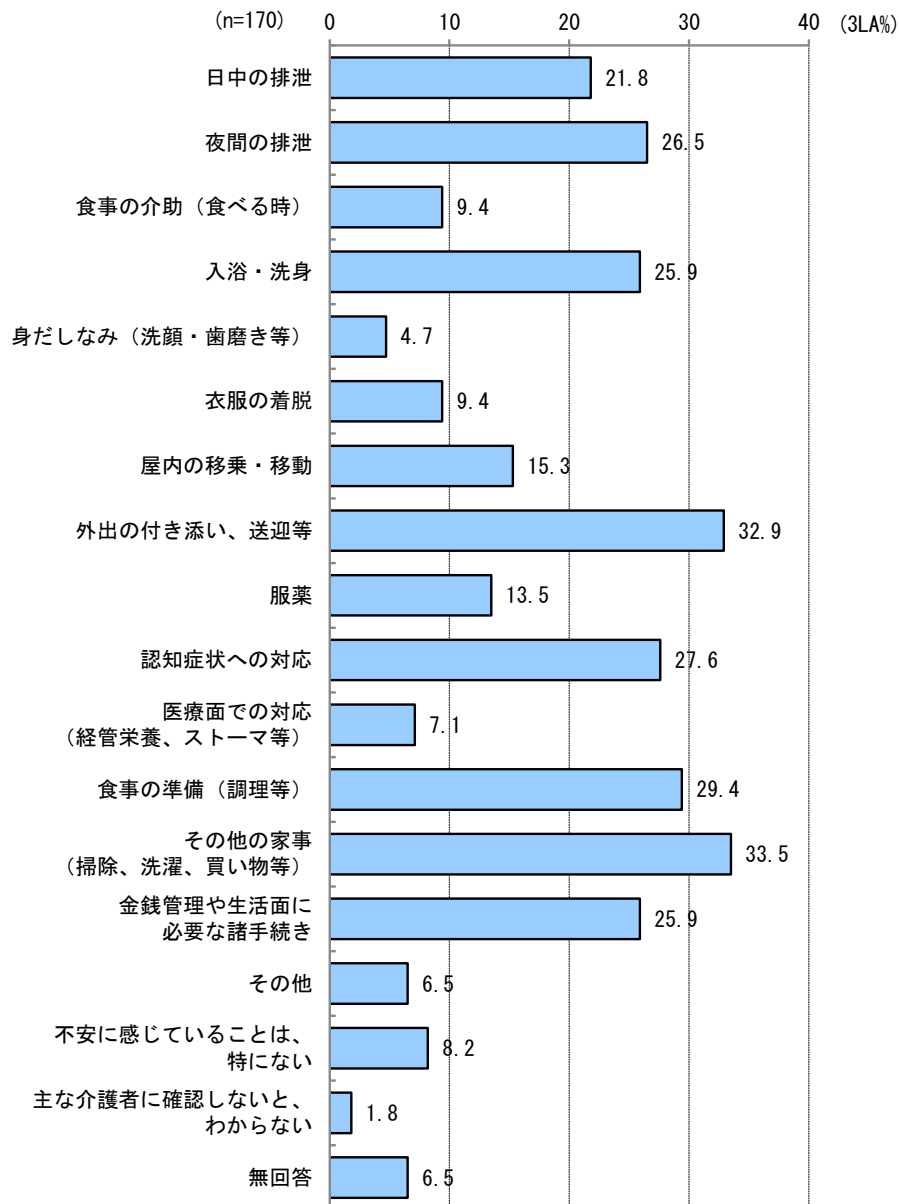
現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護について、要介護3以上では、特に「夜間の排泄」、「日中の排泄」について、主な介護者の不安が大きい傾向がみられました。

また、要支援1・2の方及び認知症の方については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「外出の付き添い、送迎等」で、主な介護者の不安が大きい傾向がみられました。

■介護者が不安を感じる介護 要介護度別

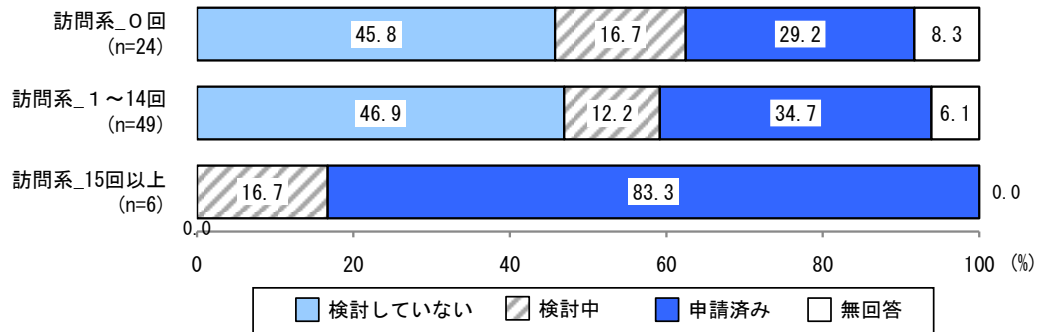


■介護者が不安に感じる介護 認知症自立度別



訪問系サービスの利用回数別に施設等検討の状況を見ると、訪問系サービスを頻回に利用しているケースで、「施設等に申請済み」との回答が多くなる傾向がみられました。

■施設等検討の状況（要介護3以上） 訪問系サービス利用回数別



また、訪問系サービスを利用していないケースでは、「夜間の排泄」について介護者不安が軽減される傾向がみられました。

■介護者が不安を感じる介護（要介護3以上） 訪問系サービス利用回数別

